

卒業生大学生生活満足度調査にみる 学生の取り組みと身についた力の 経年変化の実態

Secular change of obtained capability in relation
with the activities during students' college life,
based on the questionnaire survey at their graduation.

青木良三*、南木睦彦**、三谷哲雄***
Ryozo Aoki, Minaki Mutsuhiko, Tetsuo Mitani

流通科学大学の2005年度から2010年度の卒業時のアンケート調査を経年的に分析した。検討対象とした調査項目は、各種の満足度が5項目、各種の取り組みが3項目、大学生生活で身についたと実感できる力が5項目である。単純集計の結果、「学生生活の満足度」「研究演習（ゼミ）の満足度」「授業全体に対する満足度」「カリキュラムの満足度」の順に高いことは5年間で変化はなかった。「卒業後の進路の満足度」は2006年度のピークから13.3ポイントも低下した。満足度を問う質問すべてで「大変満足」「満足」と答えた学生は、毎年度100～130名である。クロス集計の結果、このような学生では、大学生生活で身についたと実感できる力5項目の「とても実感できる」「実感できる」は、5項目すべてで全体の値を15ポイント以上上回っていた。学生生活に「大変満足」「満足」やクラブ・サークル所属は、趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついたとの実感を大幅上昇させた。授業全般やカリキュラムに「大変満足」「満足」する学生は、五つの力のいずれでも「とても実感」「実感」の上昇幅が大きかった。ゼミに「大変満足」「満足」したものは、五つの力が身についたとの実感の上昇幅は小さい。就職に「大変満足」「満足」と、身についた力の「とても実感」「実感」の関係は2006年度と2010年度で大きな差があり、2006年度の上昇幅は小さかった。様々な力を身につけさせるためには、クラブ・サークルへの所属、ゼミへの所属と満足、カリキュラムや授業への満足、学生生活への満足のそれぞれが、いくぶん違った働きをしているであろうことがうかがえた。5項目すべてに「大変満足」「満足」な学生の各種の力が身についたとの実感は、極めて高いが、毎年100～130名に止まっている。このような卒業生を増やすことが課題といえる。

キーワード：卒業生大学生生活満足度調査、学生生活実態調査、経年変化

* 流通科学大学 商学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

** 同上

*** 流通科学大学 総合政策学部、同上

I. はじめに

本学では、2005年度の卒業生から、在学期間を通しての満足度や学生生活の実態、ならびに身についた力を卒業時に調査している。これは、本学の教育の成果を学生の身についた力や満足度という側面から測定して、本学の教育を評価すると共に、問題点や課題を見出して改善に結びつけることが狙いである。質問項目の選定にあたっては、ベンチマークとして用いることを想定して、私大連の「学生生活実態調査」を参考にしている。私大連の「学生生活実態調査」は、加盟大学の学部学生を対象に4年ごとに実施されており、直近の調査は2010年秋に実施されており（私大連学生会学生生活実態調査分科会、2011）、私大連のホームページでも公開されている。なお、本学では在学中の学生も対象とした学生生活実態調査を過去3回実施している（1998年、2002年、2006年）が、これらにおいては、私大連調査と同一項目を使用した上で、独自質問を加えている。これまでは各年度においての分析結果をまとめていたが、調査結果のデータベース化ができていなかったため、経年変化をはじめ、多様な視点での詳細な分析ができなかった。そこで、2011年度にデータベース化を行った。その詳細は、別稿にて報告する。

本稿では、このデータベースを用いて、学生意識の経年変化を分析した。具体的には、一部のアンケート項目を使って、大学における活動状況と身についた力との関係の経年変化を分析した。その結果に基づき、身についた力を向上させるのに重要な大学での活動に関する知見を整理した。

II. 分析の概要

1. 調査データの概要

調査票は卒業式の案内に同封して、卒業全員に送付した。卒業式会場に回収箱を置いて回収した。各年度の卒業生数と回収数、回収率は表1のとおりである。2010年度の調査票を参考に付録1に付す。

学部、学科別の回収数は、表2、表3のとおりである。

本稿において使用するデータベースは、2005年度～2010年度の各年度の卒業生に対して行った大学生生活満足度調査の結果をまとめた Microsoft Excel（以降エクセル）のファイルを使用する。使用するデータが3316件

(行)、119 問 (列) と小さいことから、エクセルの機能である、ピボットテーブルの活用による分析を前提として、エクセルから MS-Access 等のデータベース・ソフトウェアへのデータ変換を行わずにデータ処理を行うこととする。

表 1. 調査票回収率

卒業年度	卒業生数	回収件数	回収率
2005	973	604	62.1%
2006	987	676	68.5%
2007	818	514	62.8%
2008	866	591	68.2%
2009	782	473	60.5%
2010	802	456	56.9%

表 2. 学部別回収数

卒業年度	商学部	情報学部	サービス産業学部	未選択	計
2005	245	188	171	0	604
2006	302	190	184	0	676
2007	214	145	155	0	514
2008	265	163	165	0	593
2009	203	127	140	3	473
2010	225	129	98	4	456

表 3. 学科別回収数

卒業年度	流通学科	経営学科	ファイナンス学科	経済情報学科	経営情報学科	観光・生活文化事業学科	医療福祉サービス学科	未選択	総計
2005	91	103	51	86	102	64	107	0	604
2006	119	123	60	80	110	85	99	0	676
2007	82	90	42	75	70	80	75	0	514
2008	97	107	61	78	85	76	89	0	593
2009	75	78	50	58	69	66	74	3	473
2010	100	63	62	59	70	64	34	4	456
総計	564	564	326	436	506	435	478	7	3316

2. 分析に用いたデータ

卒業生満足度調査のアンケート項目のうち、表 4 に示す項目について分析した。ア～カは、学生生活全般に対する満足度や取り組みの項目である。Q-1～5 は、学生生活を通して身についた力に関する項目である。

表 4. 本稿で使用する卒業生満足度調査のアンケート項目

	項目	選択	分類
ア	学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？	①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満	満足度
イ	あなたの授業全体に対する満足度はどうですか？	①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満	満足度
ウ	本学のカリキュラムについて	①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満	満足度
エ	研究演習(ゼミ)について	①ゼミに所属して卒業論文を執筆した ②ゼミに所属していたが卒業論文を執筆しなかった ③ゼミに所属していたが途中でやめた ④ゼミに所属していなかった	取り組み
オ	エ.の設問で①～③を選んだ人はお答えください。研究演習(ゼミ)の満足度について	①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満	満足度
カ	あなたの卒業後の進路について	①就職 ②進学 ③その他	取り組み
キ	あなたの卒業後の進路について、満足度はどうですか？	①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満	満足度
ク	学生時代に参画した制度、取り組み、行事は何ですか？	クラブ(体育会、文化会)、サークル 学生チューター、海外留学、中内記念館作文 等、 34項目より選択	取り組み
Q-1	大学生活で「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた」と実感できますか？	①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない ④実感できない ⑤全く実感できない	身につく力
Q-2	大学生活で「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」と実感できますか？	①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない ④実感できない ⑤全く実感できない	身につく力
Q-3	大学生活で「専門的知識を活かして考える力がついた」と実感できますか？	①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない ④実感できない ⑤全く実感できない	身につく力
Q-4	大学生活で「ものごとを論理的に考える力がついた」と実感できますか？	①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない ④実感できない ⑤全く実感できない	身につく力
Q-5	大学生活で「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」と実感できますか？	①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない ④実感できない ⑤全く実感できない	身につく力

3. 分析の方法

ア～カおよび Q-1～5 のそれぞれの項目について、それぞれの学生割合の経年変化の実態を明らかにするため単純集計を行う。身についた力を向上させるのに重要な大学での活動を明らかにするため、大学における活動状況と身についた力との関係の経年変化を分析する。ここで、それぞれの学生の活動状況については、満足度の高い学生がそれぞれの活動に対して意欲があり、前向きで、積極的な取り組みをしていたと仮定する。

Ⅲ. 分析結果

1. 単純集計の結果

a. 学生生活の満足度について

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」との問いに「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度が76.3%と前年度と比べ4.9ポイント低下した（図1）。この割合の2005年度から10年度までの「大変満足」「満足」と回答した卒業生の人数による加重平均が77.3%なので、それとの比較では1.0ポイントの低下にとどまる。この低下の原因については、後で述べる。

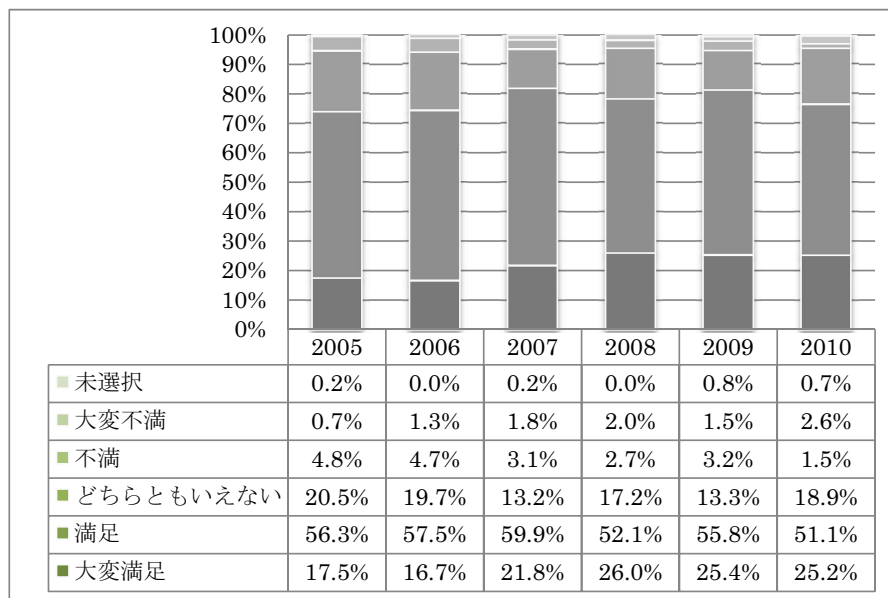


図1. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」

b. 授業全体に対する満足度について

イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」との問いに「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度が59.4%と前年度と比べ0.8ポイント低下した。2007年度に66.5%と高い値を示して以降は低下が続き、2010年度は60%台を割った。学生生活の満足度に比べ、授業全般に対する満足度は低い。その一方で「大変不満」と「不満」を合計した数値は、2010年度7.5%となっており、前年度と比べ1.0ポイント低下した。「大変不満」と「不満」を合計した数値は、2004年度、2005年度が10%台であったが、2006年度以降6～8%で推移している。(図2)

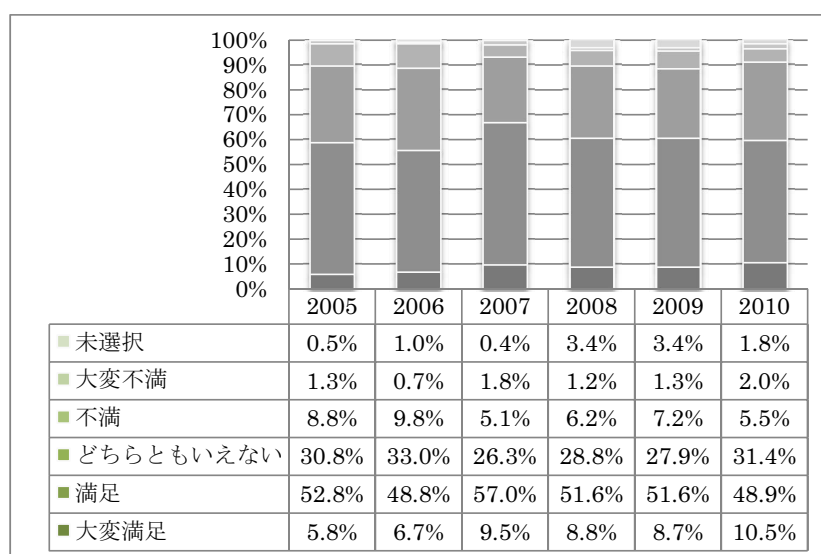


図2. イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」

c. カリキュラムの満足度について

ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度は56.6%と、前年度と比べ3.5ポイント低下した。一方「大変不満」「不満」は、6.6%と前年度と比べ1.2ポイント低下しており、「どちらともいえない」が34.3%と前年度と比べ7.0ポイント上昇している。カリキュラムに対する満足度は、他の満足度と比べ、比較的小さいという結果になっている。(図3)

d. 研究演習（ゼミ）の取り組み、満足度について

研究演習Ⅰが必修なので当然であるが、エ：「研究演習（ゼミ）について」、

①「研究演習に所属して卒業論文を執筆した」②「研究演習に所属していたが卒業論文を執筆しなかった」③「研究演習に所属していたが途中でやめた」の一時的にでも研究演習に所属した卒業生の割合は95.4%と、ほぼ全員が研究演習に所属していた、もしくは所属していたことがあるという結果になった。(図4)

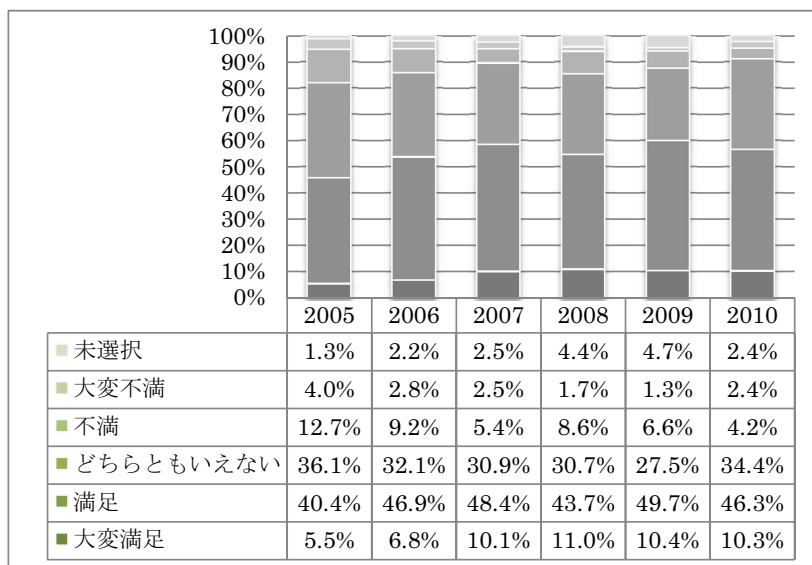


図3. ウ:「本学のカリキュラムについて」

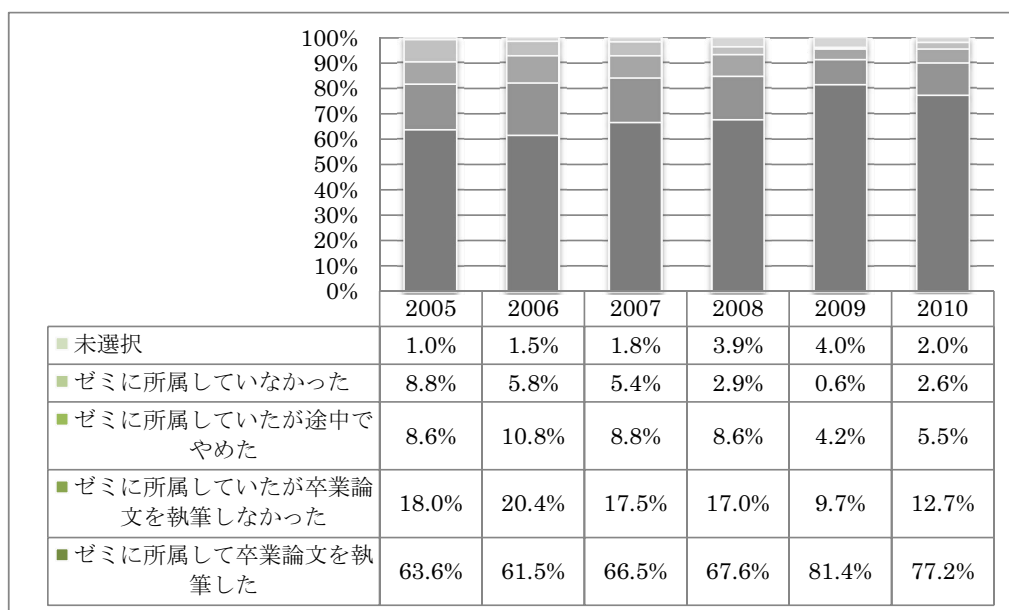


図4. エ:「研究演習(ゼミ)について」

上記のオ：「エ.の設問で①～③を選んだ人の研究演習（ゼミ）の満足度について」に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度は77.6%と、前年度と比べ1.3ポイント上昇した。この値は、授業全般に対する満足度より高く、学生生活全般に対する満足度よりも低い。（図5）

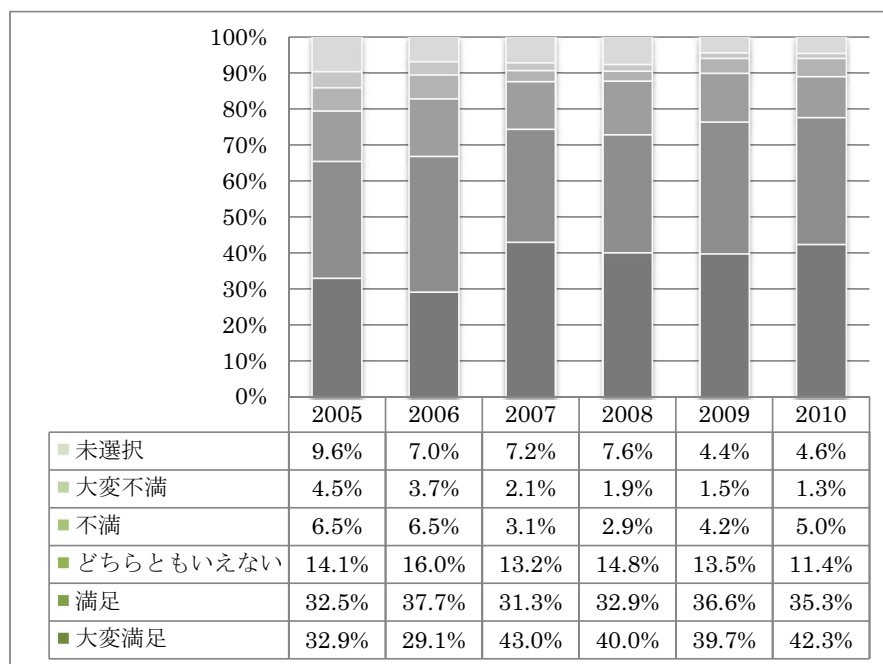


図5. オ：「エ.の設問で①～③を選んだ人の研究演習（ゼミ）の満足度について」

さらに、エ-①の「研究演習に所属して卒業論文を執筆した」卒業生の研究演習の満足度については、以下の結果となった。「研究演習に対する満足度」に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度は84.7%と前年度と比べ1.1ポイント低下した。この割合のピークは2007年度の91.5%であったから、ピークからは6.9ポイント低下したことになる。研究演習で卒論を執筆しても満足感が得られたという卒業生が減っている可能性があり、それが事実とするなら問題である。（図6）

e. 卒業後の進路への満足度について

カ：「あなたの卒業後の進路について」は、2010年度は「就職」が80.7%で最も多く、「進学」は3.3%に過ぎない。ちなみに、就職の割合が最も多かったのは、2006年度で88.8%あったから、ピークから8.1ポイント低下したことになる（図7）。就職率の悪化を反映しているが、アンケート回答

者の就職率は、本学の就職率よりも若干高い。ちなみに、キャリア開発課による調査によれば、2010年度 73.1%、09年度 75.2%、08年度 82.4%、07年度 86.4%、06年度 85.8%、05年度 80.2%となっている。

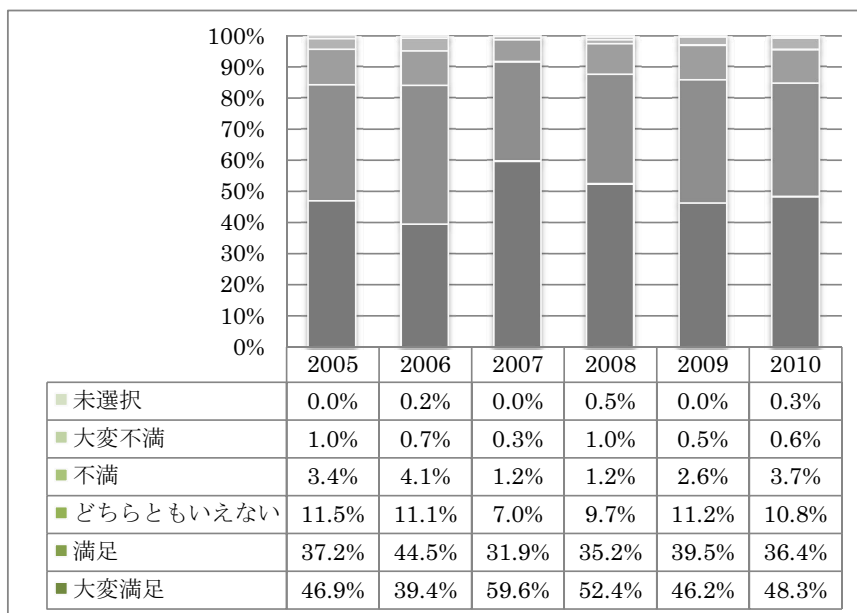


図 6. 「研究演習に所属して卒業論文を執筆した（エ-①）」卒業生の研究演習の満足度

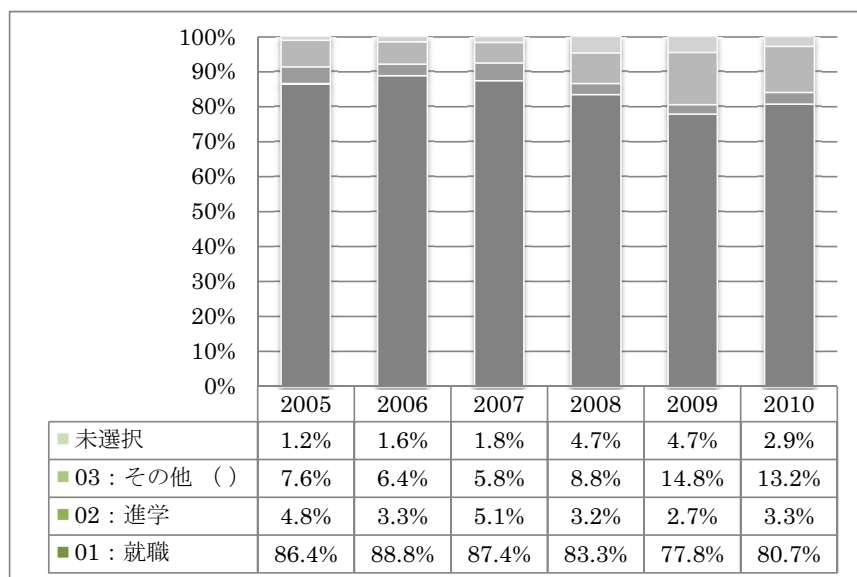


図 7. カ：「あなたの卒業後の進路について」

キ：「あなたの卒業後の進路についての満足度」については、2010年度の「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、59.6%で前年度と比べ1.3ポイント低下している。この割合のピークは2006年度の72.9%であったから、ピークから13.3ポイント低下したことになり、比較的大きな低下幅といえよう。(図8)

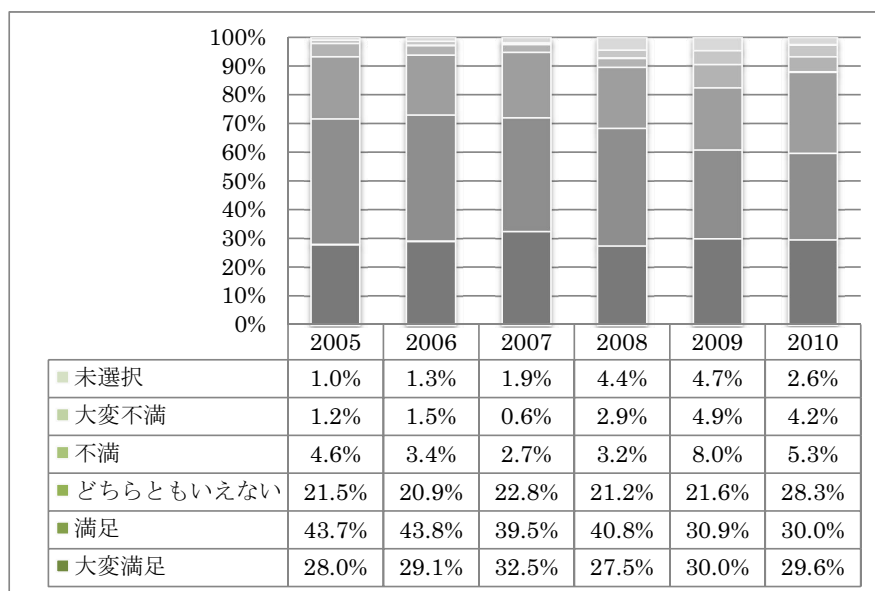


図8. キ：「あなたの卒業後の進路についての満足度」

これに対して、2010年度の「大変不満」「不満」と回答した卒業生の割合は、9.5%で前年度と比べ3.4ポイント低下している。その代わりに、「どちらともいえない」が28.3%と前年度と比べ6.7ポイント上昇している。

卒業後の進路に対する満足度を引き上げるための施策が大学に期待される。それと同時に、就活に対する取り組み方がおざなりになっている学生が一部ではあるが見られることも事実であろう。

カ：「あなたの卒業後の進路について」に「就職」と回答した卒業生のキ：「あなたの卒業後の進路についての満足度」に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合は、2010年度は69.3%と、前年度と比べ2.5ポイント低下した。これまでの最低値となった。この割合の最大値は、2006年度の77.6%であったから、それとの比較では8.3ポイントの落ち込みとなる。これは、就職環境の悪化によって、就職できても満足度は低下しているということであろうか。(図9)

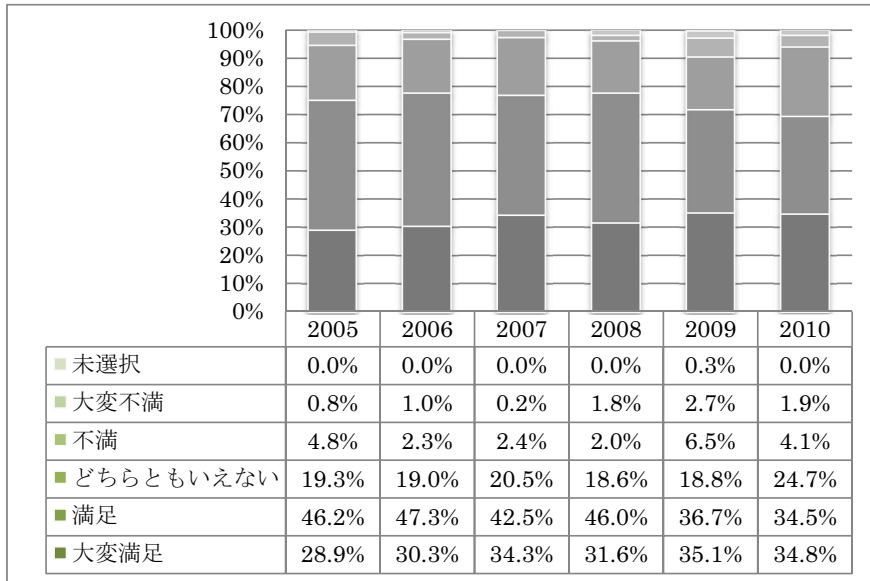


図 9. 卒業後の進路「就職」への満足度

f. クラブまたはサークルへの取り組みについて

ク：「学生時代に参画した制度、取り組み、行事は何ですか？」より、クラブ、またはサークルを選択した卒業生を抽出し、クラブまたはサークルへ加入していた卒業生のデータとした。

2008年度以降のデータしかないが、2010年度の卒業生のクラブまたはサークルの加入率は、51.5%で前年度と比べ6.0ポイント低下した。比較的大きな低下幅であるため、実態調査の必要性を感じるころである。(図10)

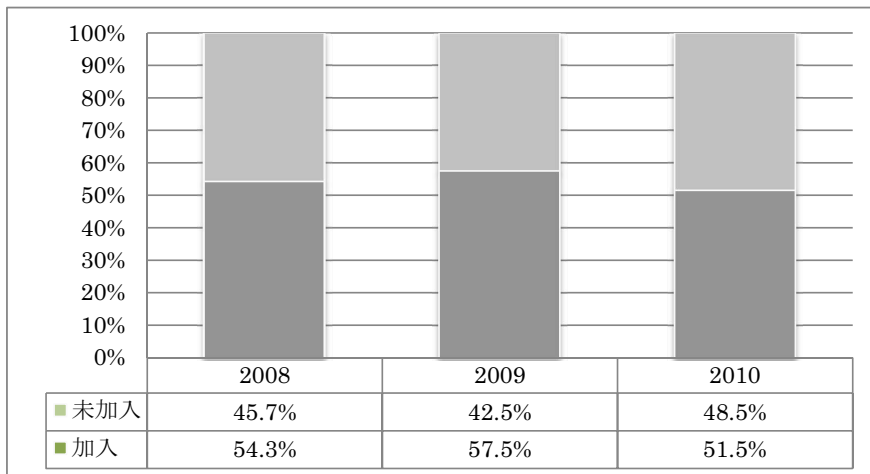


図 10. クラブまたはサークルへの加入率

g. 満足度を問う設問にて、全てに大変満足、満足した卒業生について

ア：学生生活、イ：授業全般、ウ：カリキュラム、オ：研究演習（「卒業論文を執筆した」でフィルタ）、キ：就職（カを「就職」でフィルタ）に関する質問にすべて「大変満足」「満足」と回答した卒業生を対象としたクロス集計を行う。ちなみに、対象となる卒業生の実人数は、毎年度100名～130名となっている。（図11）

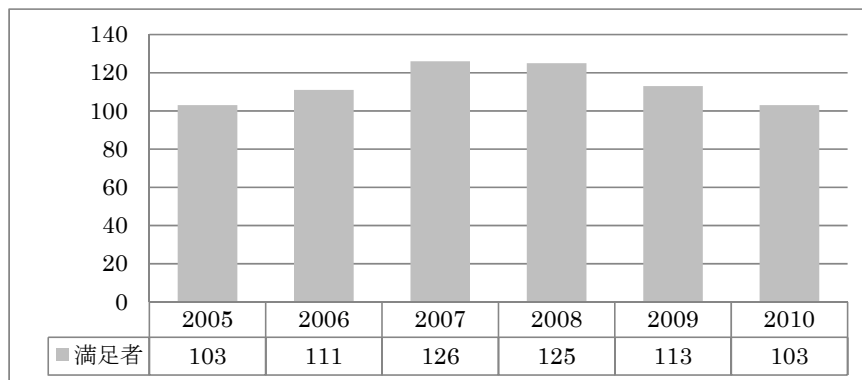


図11. 「学生生活」「授業全般」「カリキュラム」「研究演習」「卒業後の進路」について、全て「大変満足」「満足」と回答した卒業生数。

h. 趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力について

Q-1:「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた」に「とても実感できる」「実感できる」と回答した2010年度の卒業生の割合は、66.7%と前年度と比べ4.0ポイント低下した。この割合は、2005年度以降、70%越えと60%台後半を一年ごとに繰り返してきた（上下の幅は7.2%）。この間のクラブまたはサークルの加入率は、50%台で、やはり一年ごとに上下していたのでその影響かも知れないが、以下の質問項目でも似たような傾向を示している。（図12）

i. 視野を広げ、ものごとを幅広く考える力について

Q-2:「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」に「とても実感できる」「実感できる」と回答した2010年度の卒業生の割合は、76.5%と前年度と比べ5.7ポイント低下した。この割合も2005年度以降、80%台前半と70%台後半を一年ごとに繰り返している（上下の幅は6.9%）。（図13）

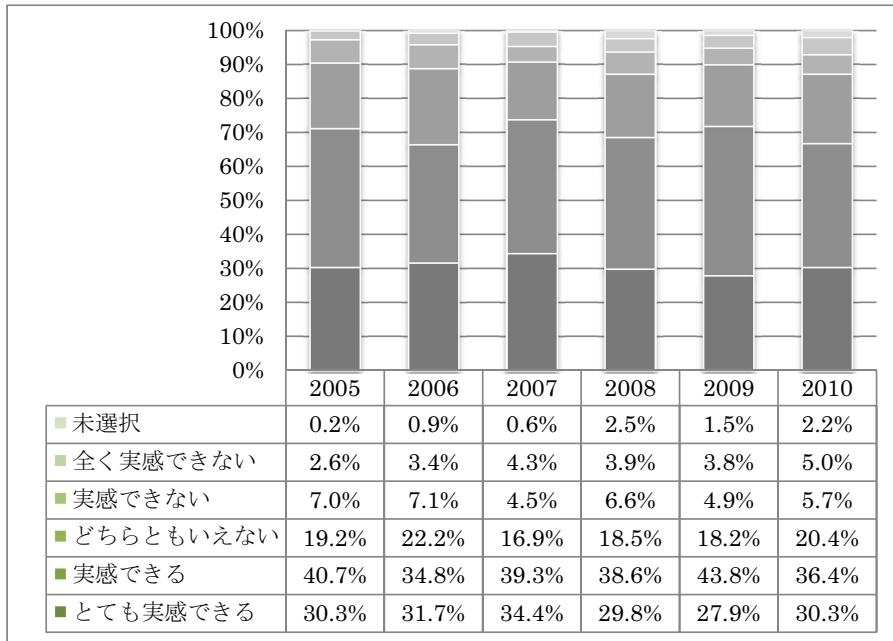


図 1 2. Q-1 大学生生活で「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついていた」と実感できますか？

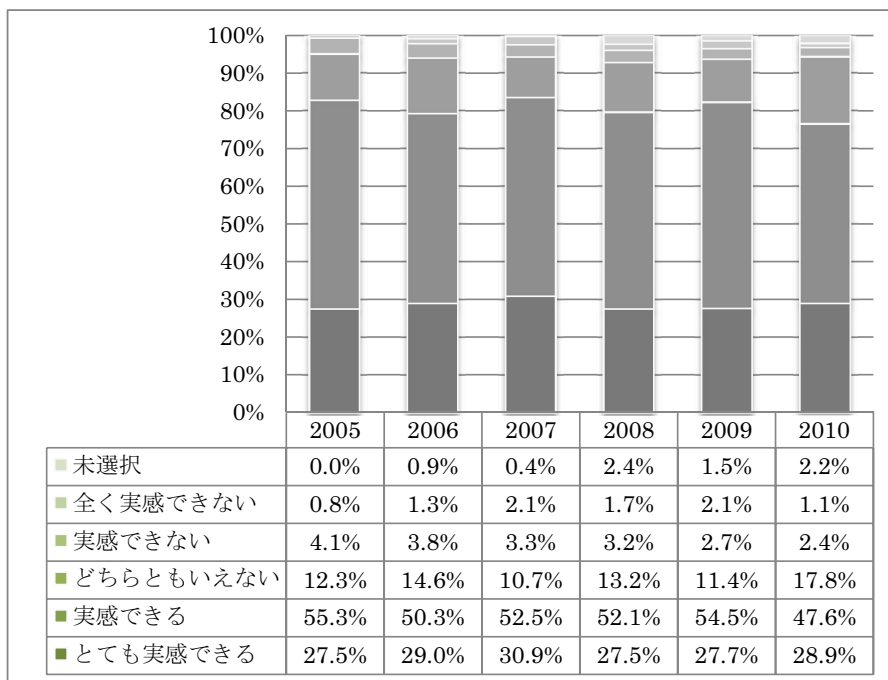


図 1 3. Q-2. 大学生生活で「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついていた」と実感できますか？

ｊ．専門的知識を生かして考える力について

Q-3:「専門的知識を生かして考える力がついた」に「とても実感できる」「実感できる」と回答した2010年度の卒業生の割合は、62.3%と前年度と比べ2.7ポイント上昇した。上述のパターンでいけば、2010年度は低下の年であったが、上昇している。2005年度以降の変動の上下の幅は、4.5%であった。(図14)

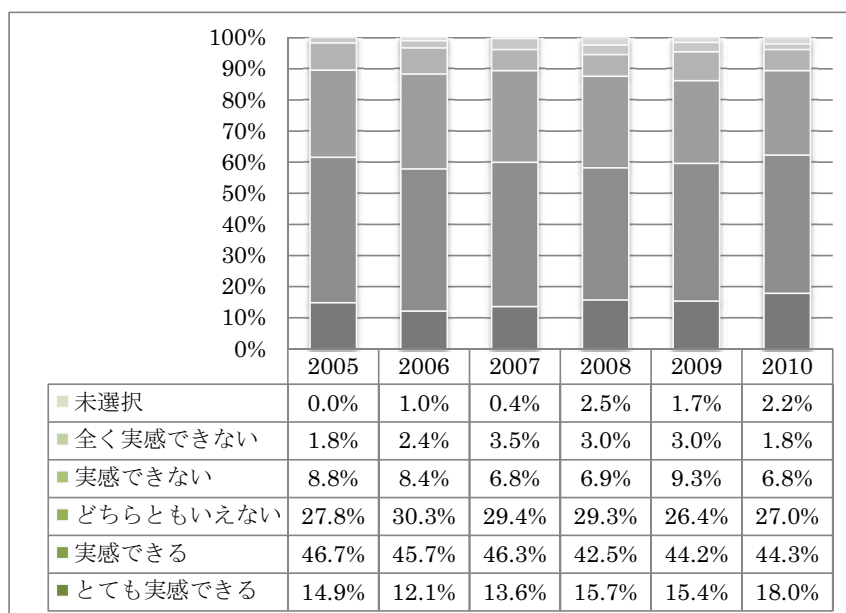


図14. Q-3 大学生活で「専門的知識を活かして考える力がついた」と実感できますか？

ｋ．ものごとを論理的に考える力について

Q-4:「ものごとを論理的に考える力がついた」に「とても実感できる」「実感できる」と回答した2010年度の卒業生の割合は、63.2%と前年度と比べ0.2ポイント低下した。この割合も2005年度以降、比較的小さい幅(上下の幅は2.9%)の中ではあるが上げ下げを繰り返している。比較的安定した結果が出ているといえよう。(図15)

ｌ．現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力について

Q-5:「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」に「とても実感できる」「実感できる」と回答した2010年度の卒業生の割合は、66.7%と前年度と比べ0.4ポイント低下した。この割合も2005年度以降、上げ下げを繰り返している。上下の幅は4.7%であった。(図16)

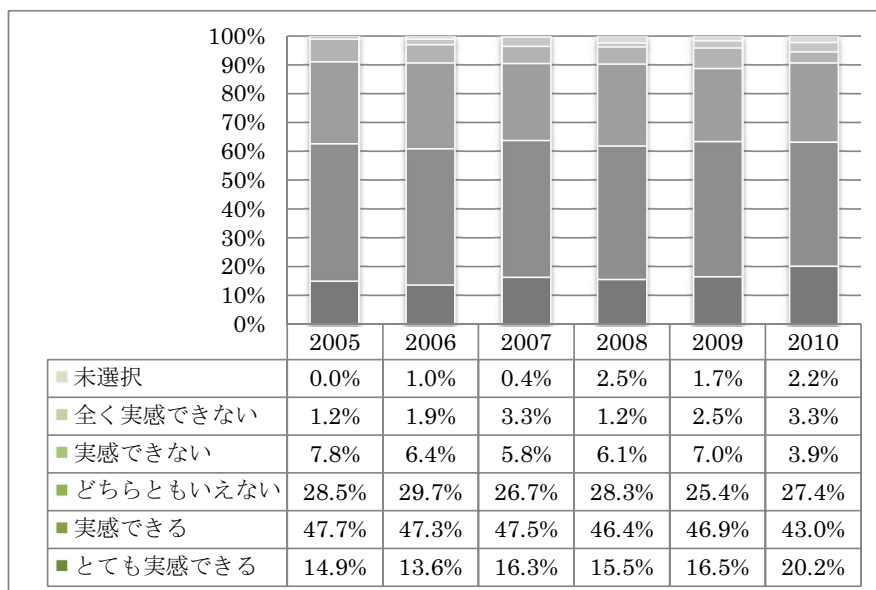


図15. Q-4 大学生生活で「ものごとを論理的に考える力がついた」と実感できますか？

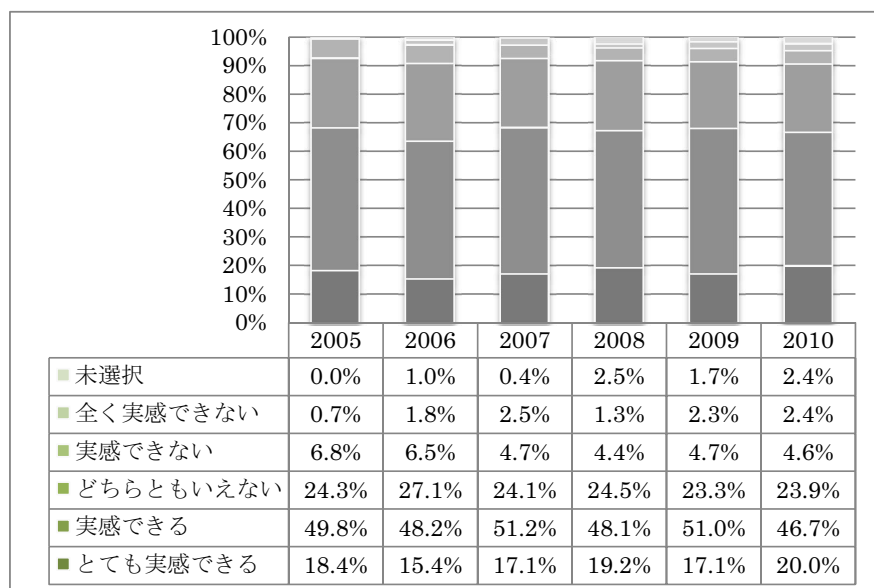


図16. Q-5 大学生生活で「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」と実感できますか？

m. 『私立大学学生生活白書 2011』 と対比したまとめ

単純集計の結果で注目すべき点を述べる。2005年度から2010年度にかけて、「学生生活の満足度」「研究演習（ゼミ）の満足度」「授業全体に対する満足度」「カリキュラムの満足度」の順に高いことは5年間で変化はなかつ

た。いずれも 2010 年度は 2005 年度と比較すると上昇しているが、前年と比較すると低下していた。特に「授業全体に対する満足度」は 2007 年度以降低下し続け、2010 年には 60%台を割った。「研究演習（ゼミ）の満足度」は卒業論文を執筆した場合に、所属したが執筆しなかった場合より高いが、卒論執筆率は 2007 年の 66.5%から 2010 年度の 77.2%に上昇しているが、一方執筆した場合の満足度はこの間に 6.9 ポイント低下していた。「卒業後の進路の満足度」は 2006 年度のピークから 13.3 ポイントも低下しており、就職できた学生でもピーク時から 8.3 ポイントも低下している。クラブまたはサークルへの所属率は 3 年間のデータしかないが、2010 年度には前年から 6.0 ポイント低下した。満足度を問う質問すべてで「大変満足」「満足」と答えた学生は、毎年度 100～130 名に止まっている。

身についてと実感できる力は、「とても実感できる」「実感できる」が隔年で上下する現象が現れている。2010 年度は低下年に当たる。同様の隔年現象は 3 年間のデータしかないが「クラブまたはサークルへの加入率」で明瞭であり、また「学生生活を振り返った時の満足度」「授業全体の満足度」「カリキュラムに対する満足度」においても認められる。隔年での上下はあるものの、満足度で見られたような 2005 年度から 2010 年度にかけての上昇や、2007 年度頃をピークにしての低下といった傾向はみられない。これらの力を獲得したと実感できる比率は 5 年間で大きな変化はなかったといえる。

どのような力が身についてと実感できるかについて、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」「ものごとを論理的に考える力」「専門的知識を生かして考える力」の順に高いことは 5 年間で変化はなかった。なお、私大連 2011 年度調査においての「とても実感できる」「実感できる」の合計は、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」が 74.9%で 4 年前から 1.4 ポイント低下、「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」が 66.9%で 4 年前から 1.8 ポイント上昇、「専門的知識をもとに論理的に考える力」が 59.0%で 4 年前から 3.4 ポイント上昇という結果が出ている（私大連学生委員会学生生活実態調査分科会、2011）。なお、「現実の問題や課題を発見し、解決していく力」の項目は私大連調査にはない。私大連調査は卒業時ではなく在学生に対する調査であるとの違いがあるが、単純に比較すると、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」や「趣味やスポーツ

等によって生活を楽しむ力」は全国平均と同等で、専門的知識の利用や論理的思考力については、質問文が異なるが、全国平均よりやや高いといえそうだ。

2. 大学における活動状況と身についた力との関係

ア〜クについての満足度、取り組みについて、「大変満足」「満足」や「とても実感できる」「実感できる」と回答した卒業生は、大学での学修、クラブまたはサークル活動に意欲があり、前向きで、積極的であったと仮定できる。それらの卒業生について、Q-1〜5の身についた力について分析する。

a. 学生生活の満足度と身についた力について

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、76.7%と前年度と比べ 3.0 ポイント低下した。2007 年度の 79.8%から 76.7%に 3.1 ポイント低下した時に似ている。一方、「実感できない」「全く実感できない」の 2010 年度の割合は、6.0%と前年度比べ 2.4 ポイント上昇しているが、実人数は 21 名に過ぎない。

(図 1 7)

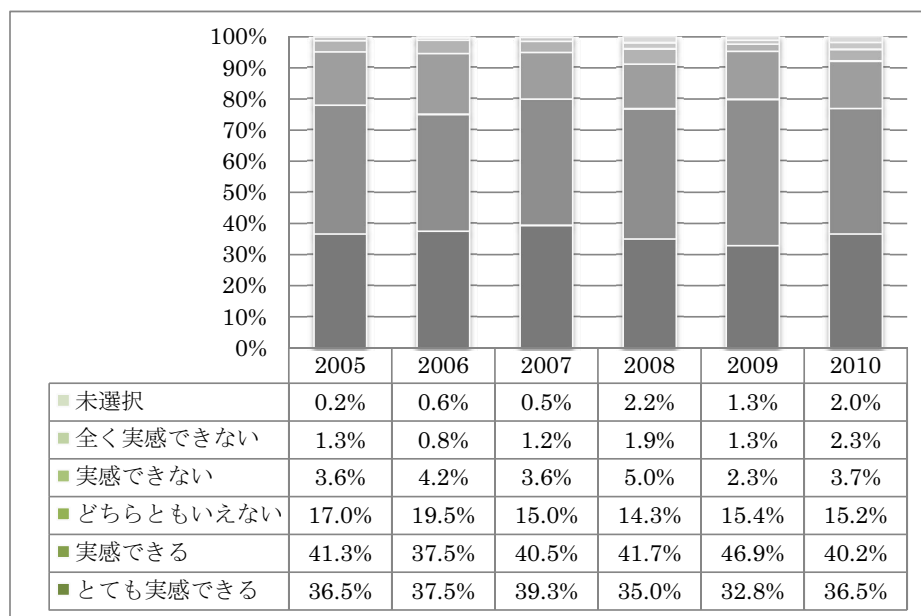


図 1 7. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-2 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、84.8%と前年度と比べ 4.6 ポイント低下した。

このように 2010 年度は低下したものの、Q-2 の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、他の 4 つの質問の同割合に比べ、常に 10 ポイントから 20 ポイント程度高い。学生生活に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の 9 割前後が「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」と実感している。(図 1 8)

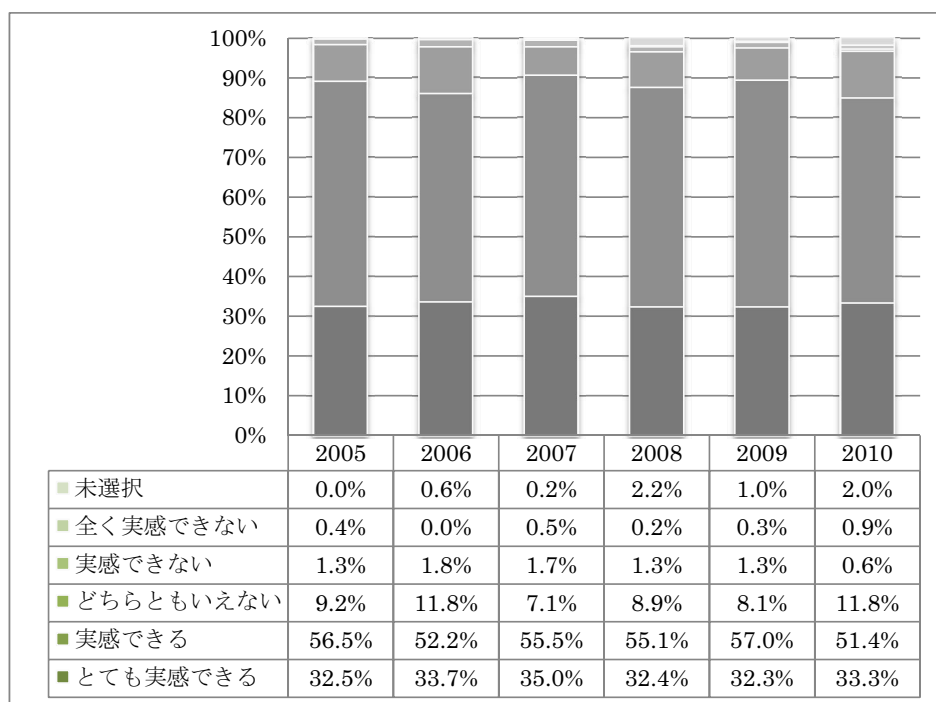


図 1 8. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

また、Ⅲ-1-a で述べたア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」との問いに「大変満足」「満足」と回答した卒業生の割合が 2010 年度 76.3%と前年度と比べ 4.9 ポイント低下したのは、Q-2 とのクロス集計の結果分かった 4.6 ポイントの低下とある程度関係があるのではない

か。統計的検定を行っていないので、これは飽くまで可能性があるという指摘にとどめたいが、他の質問項目とのクロス集計ではこれほど低下していないし、上昇しているクロス集計結果もあるためである。

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は 69.0%となり、これまでの 6 年間で最大値となった。2008 年度以降上昇が続いている（2010 年度は対前年度 2.0 ポイント上昇）。（図 19）

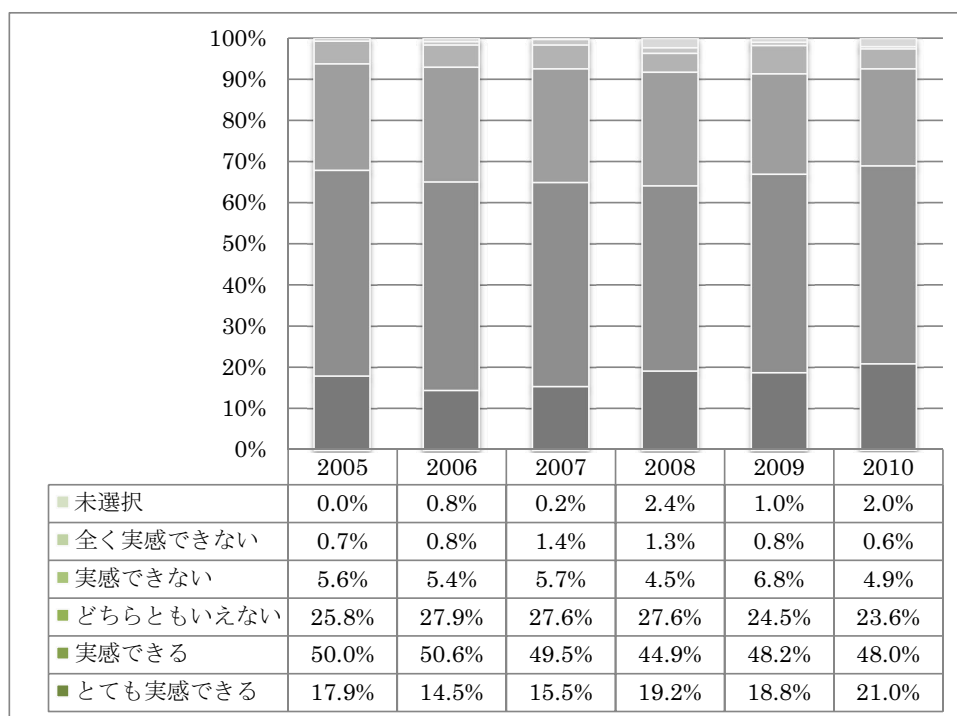


図 19. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-3「専門的知識を活かして考える」との関係

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-4 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は 69.0%と、前年度と比べほぼ横ばいとなった。この割合は、比較的安定していて、67%から 70%のレンジに収まっている。（図 20）

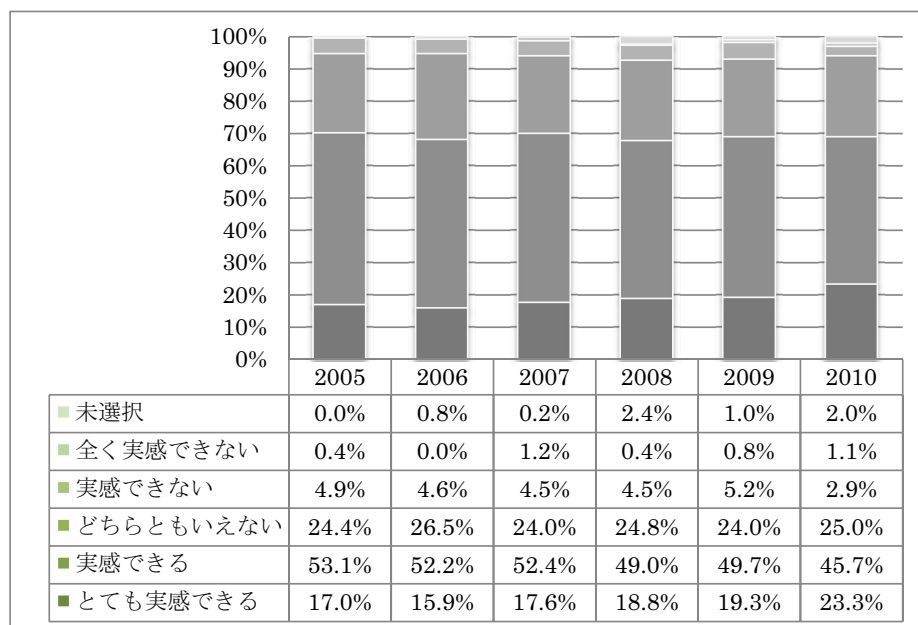


図 2 0. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-4「ものごとを論理的に考える力」との関係

ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-5 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は 74.7%と、前年度と比べ 1.0 ポイント上昇した。この割合は Q-2 とのクロス集計に次いで高い。Q-3 や Q-4 のクロス集計よりも常に高い値となっている。

つまり、「専門的知識を活かして考える力がついた」と実感できるや「ものごとを論理的に考える力がついた」と実感できるに比べ「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」と実感できると回答した学生が比較的多いという結果になった。(図 2 1)

b. 授業全般に対する満足度と身についた力について

イ：で「大変満足」「満足」と回答した卒業生について、Q-1～5 の「身についたと実感できる能力」とのクロス集計を行った。

まず、イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、74.9%と、前年度と比べ 2.6 ポイント低下している。2010 年度の「全く実感ができない」「実感できない」の

割合は、8.1%と前年度と比べ 3.9 ポイント上昇している。(図 2 2)

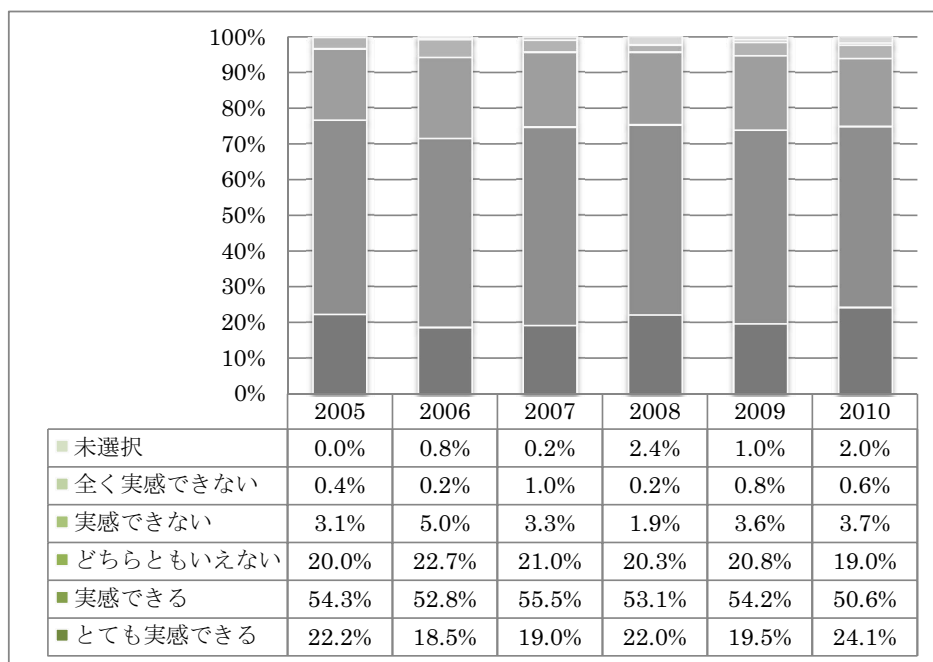


図 2 1. ア：「学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

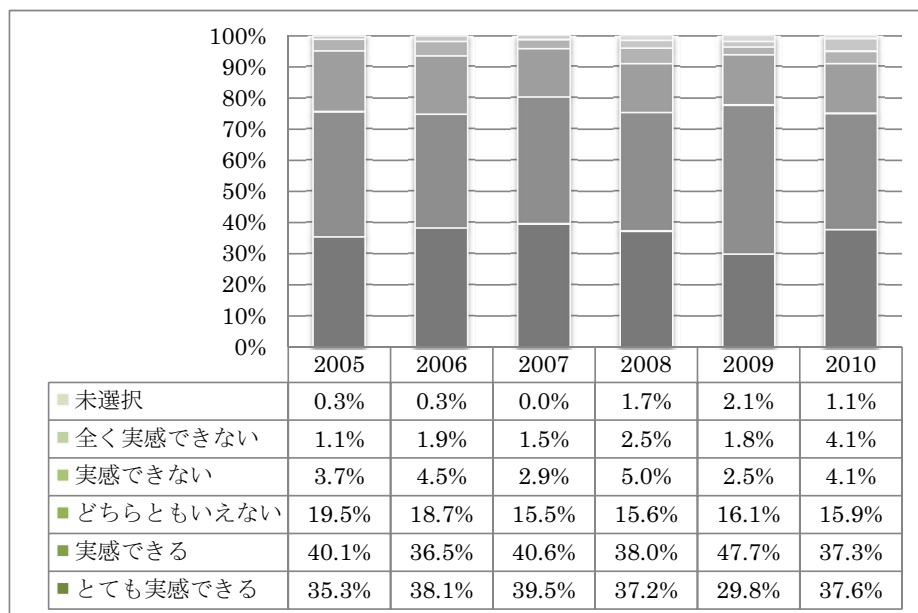


図 2 2. イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-2 とのクロス集計では、2010 年度は「とても実感できる」「実感できる」の割合は、86.7%となったが、前年度と比べ 3.1 ポイント低下した。これに対して、「大変不満」「不満」は 1.5%で、前年度と比べ 1.0 ポイント低下している。「どちらともいえない」は 4.7 ポイント上昇している。なお、5つのクロス集計の結果のなかでは「とても実感できる」「実感できる」の割合が、もっとも大きい。(図 2 3)

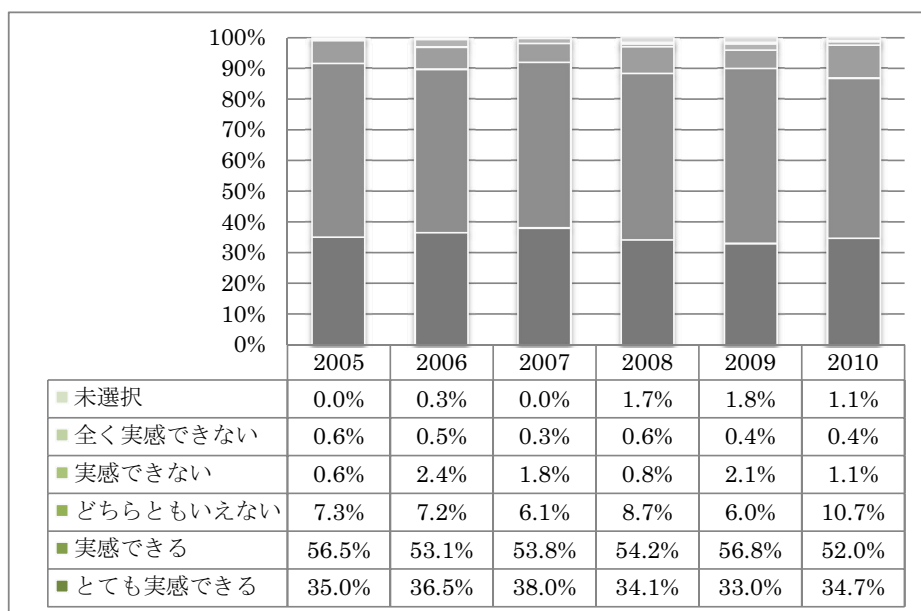


図 2 3. イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、76.8%となり、前年度と比べ 5.2 ポイントと比較的大幅な上昇をした。この数値は、これまでの最大値である。(図 2 4)

イ：「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-4 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は 73.1%と、前年度と比べ 1.8 ポイント上昇した。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合

は、1.9%と前年度と比べ 3.8 ポイント低下した。(図 2 5)

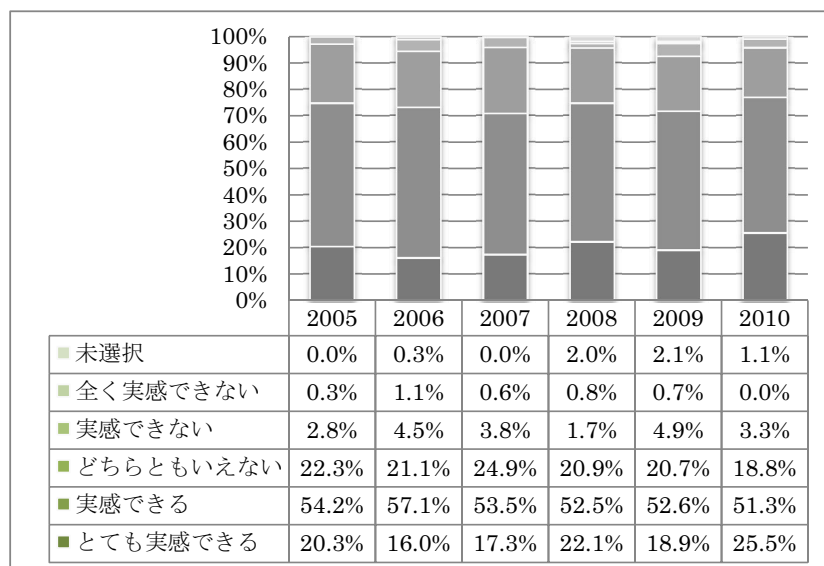


図 2 4. イ:「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-3「専門的知識を活かして考える」との関係

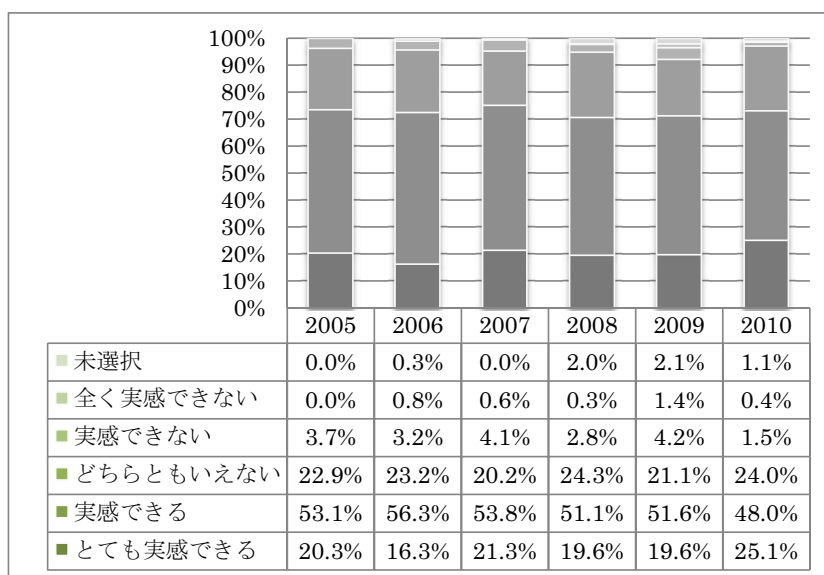


図 2 5. イ:「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-4「ものごとを論理的に考える力」との関係

イ:「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか？」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-5 とのクロス集計では、2010 年度は「とても実感できる」「実感できる」の割合は 78.3%と、前年度と比べ 5.3 ポイン

ト上昇した。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合は、2.6%と前年度と比べ2.7ポイント低下した。(図26)

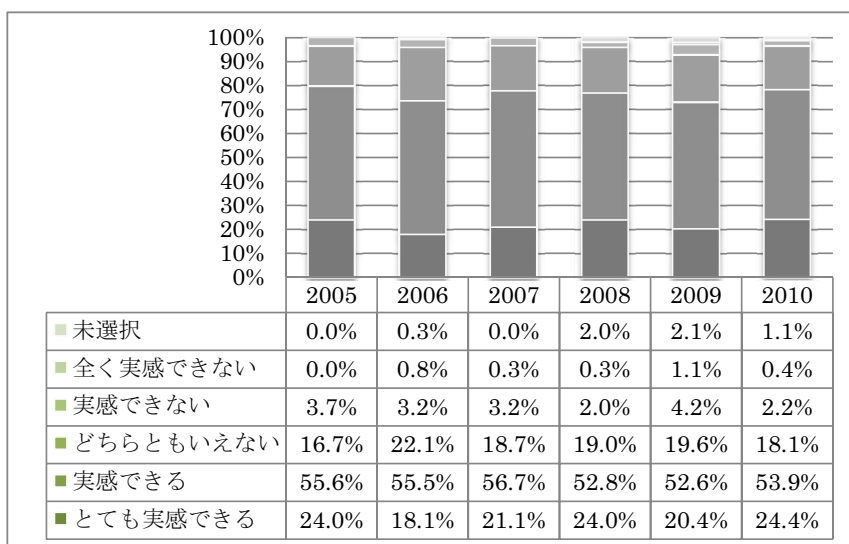


図26. イ:「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか?」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

イ:「あなたの授業全般に対する満足度はどうですか?」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生は、Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」と実感している割合が比較的大きいが、Q-3「専門的知識を活かして考える力がついた」、Q-4「ものごとを論理的に考える力がついた」、Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」とのクロス集計でも「とても実感できる」「実感できる」の割合が上昇している。良い傾向を示している。

c. カリキュラムに対する満足度と身についた力について

ウ:「本学のカリキュラムについて」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-1 とのクロス集計では、2010年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、79.0%と前年度と比べ3.0ポイント低下した。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合は、7.0%と前年度と比べ3.8ポイント上昇した。(図27)

ウ:「本学のカリキュラムについて」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-2 とのクロス集計では、2010年度の「とても実感できる」「実感で

きる」の割合は、87.9%と前年度と比べ 4.0 ポイント低下した。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合は、1.6%と前年度と比べ 0.8 ポイント上昇した。「どちらともいえない」が 9.7%と前年度と比べ 3.4 ポイント上昇している。(図 2 8)

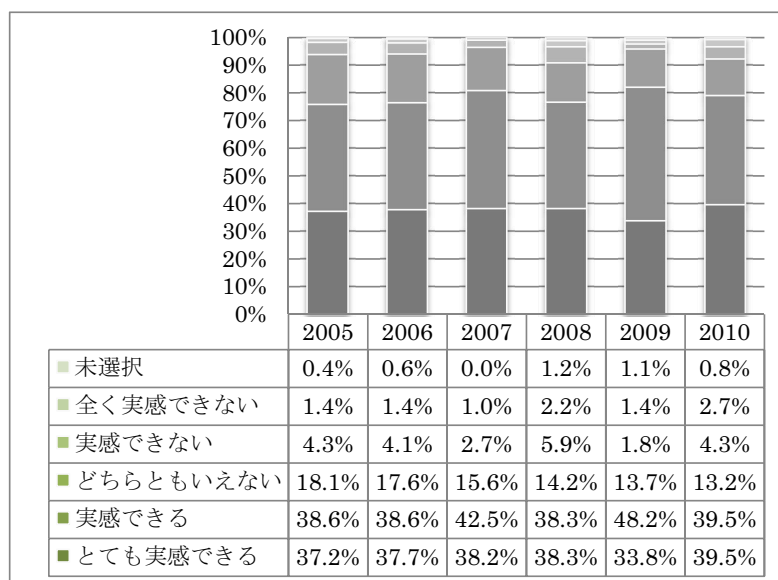


図 2 7. ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

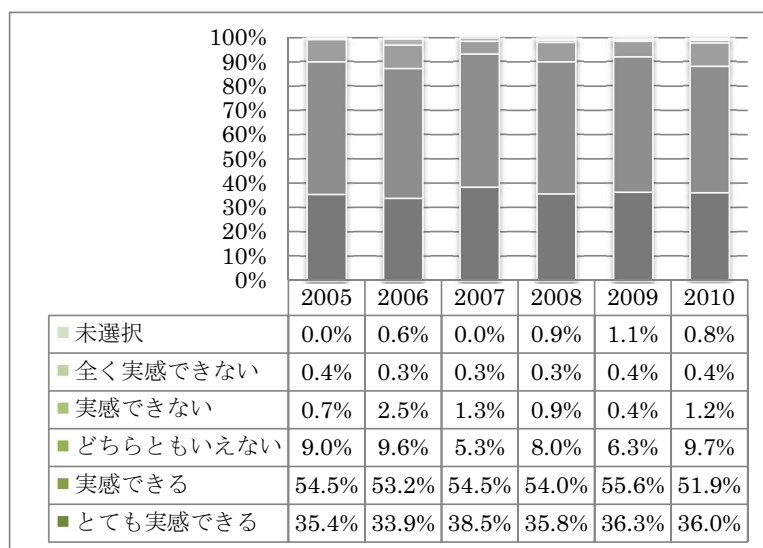


図 2 8. ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

こうした結果に対して、以下の3つのクロス集計では、「とても実感できる」「実感できる」は改善している。

ウ：「本学のカリキュラムについて」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-3 とのクロス集計では、2010年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、78.3%と前年度と比べ6.1ポイント上昇した。(図29)

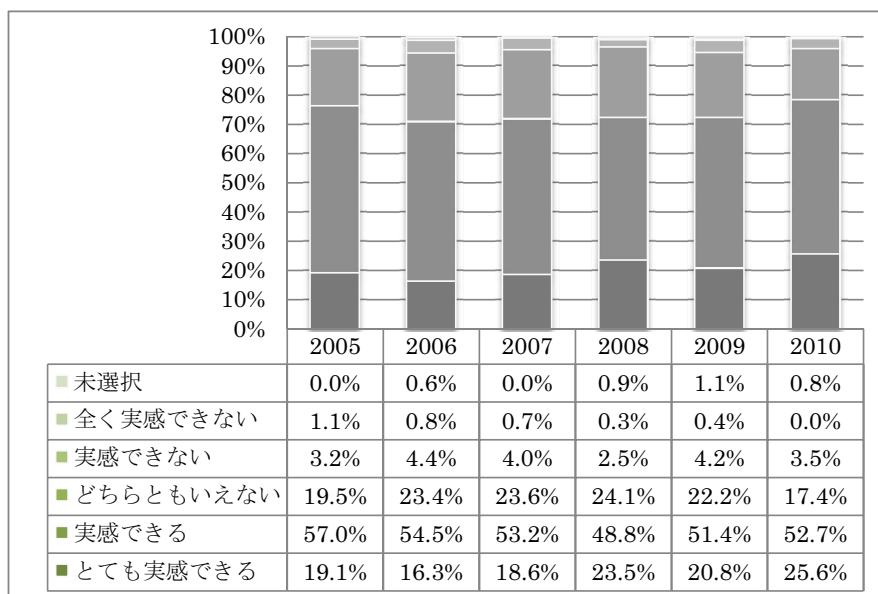


図29. ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-3「専門的知識を活かして考える」との関係

ウ：「本学のカリキュラムについて」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-4 とのクロス集計では、2010年度は「とても実感できる」「実感できる」の割合は、76.4%と前年度と比べ3.8ポイント上昇した。(図30)

ウ：「本学のカリキュラムについて」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-5 とのクロス集計では、2010年度は「とても実感できる」「実感できる」の割合は、79.8%と前年度と比べ1.3ポイント上昇した。(図31)

カリキュラムに対する満足度は、相対的には低い、「大変満足」「満足」と回答した卒業生についていえば、Q-3「専門的知識を活かして考える力がついた」、Q-4「ものごとを論理的に考える力がついた」、Q-5「現実の問題

や課題を発見し、解決してゆく力がついた」とのクロス集計で「とても実感できる」「実感できる」の割合が、2006年度以降、上昇傾向にある。現行カリキュラムが成果を上げてきているのかも知れない。

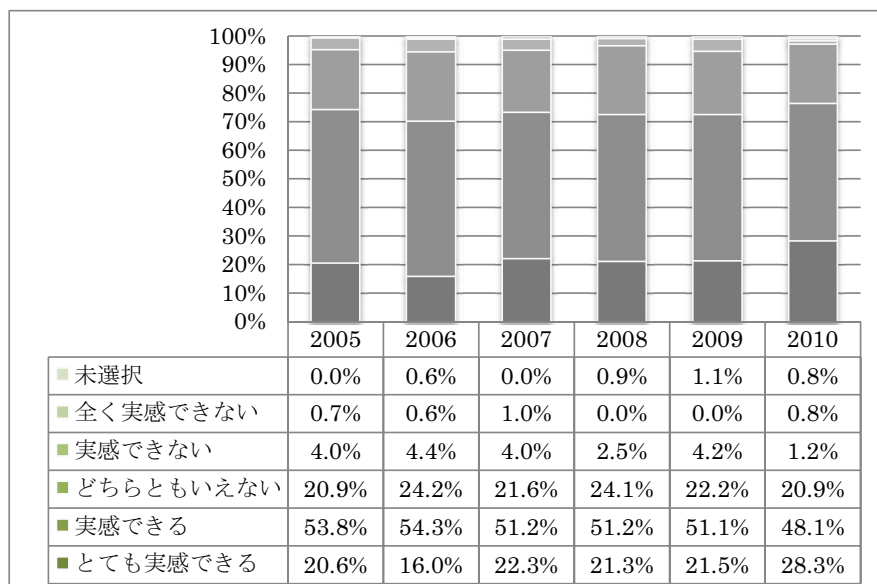


図 3 0. ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-4「ものごとを論理的に考える力」との関係

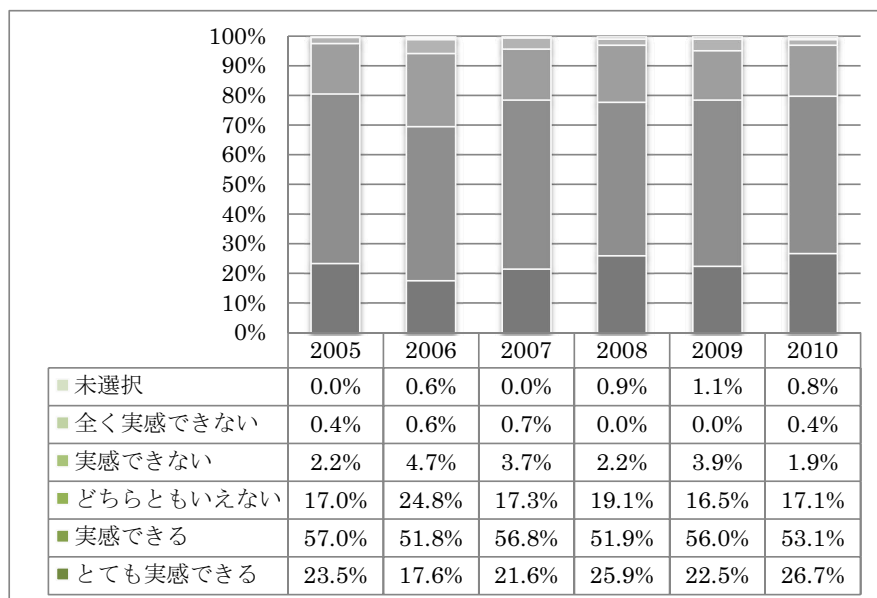


図 3 1. ウ：「本学のカリキュラムについて」に「大変満足」「満足」した卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

d. 研究演習（ゼミ）に対する満足度と身についた力について

ここでは、エ：「研究演習（ゼミ）について」の選択肢より「①ゼミに所属して卒業論文を執筆した」を選択した卒業生をフィルタリングし、分析を行なう。そのデータを『オ-①：「ゼミに所属していた卒業生」』と呼ぶこととする。

オ-①：「ゼミに所属していた卒業生」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、74.8%と前年度と比べほぼ横ばいとなっている。（図 3 2）

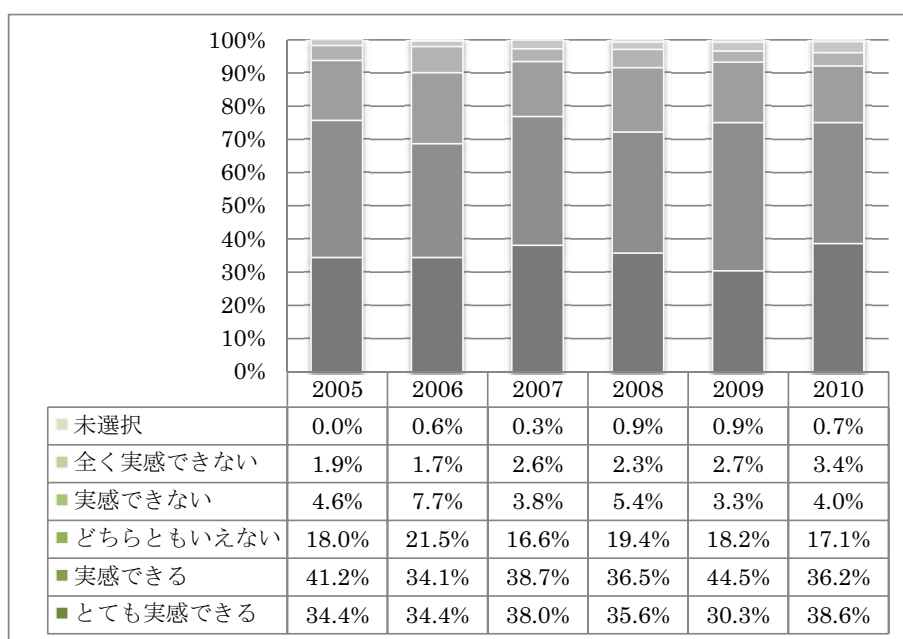


図 3 2. オ-①：「ゼミに所属していた卒業生」がゼミに、大変満足、満足した卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

Q-2 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、81.9%と前年度と比べ 3.8 ポイント低下している。（図 3 3）

これに対して、Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、67.5%と前年度と比べ 2.0 ポイント上昇した。（図 3 4）

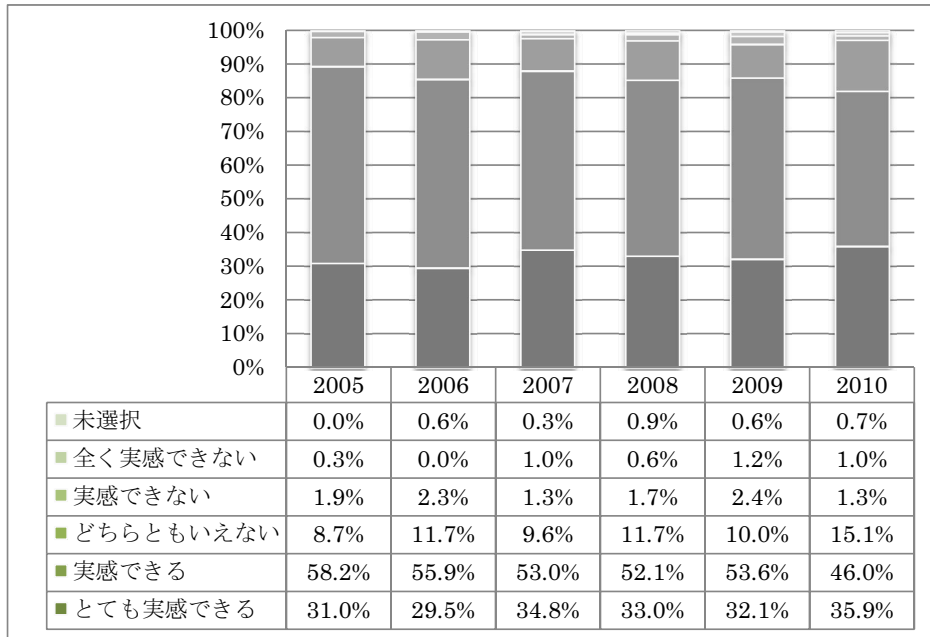


図 3 3. オ-①：「ゼミに所属していた卒業生」がゼミに、大変満足、満足した卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

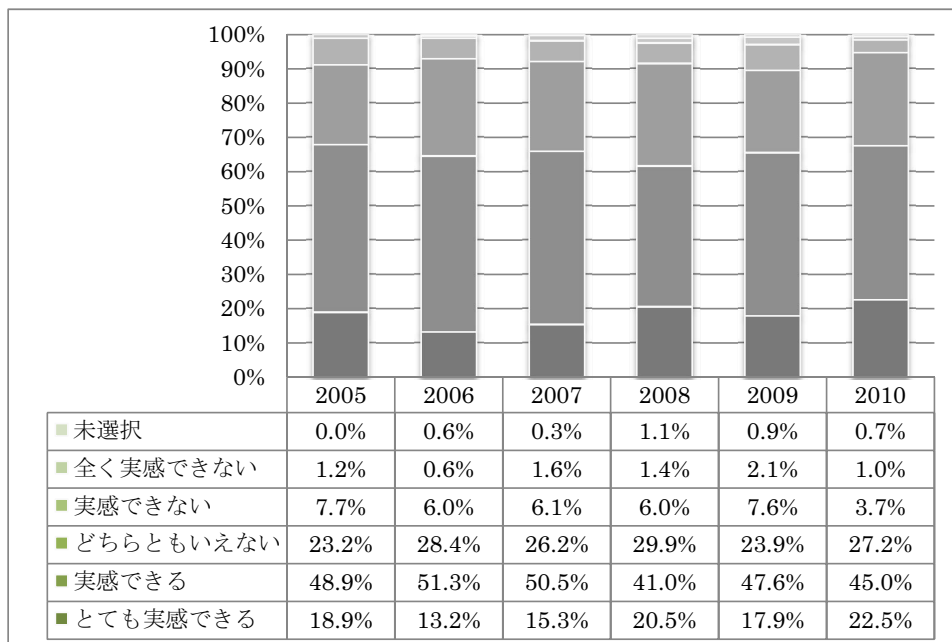


図 3 4. オ-①：「ゼミに所属していた卒業生」がゼミに、大変満足、満足した卒業生と Q-3「専門的知識を活かして考える」との関係

同じく Q-4 とのクロス集計では、同割合は 68.5%と前年度と比べ 0.6 ポイント上昇した。(図 3 5)

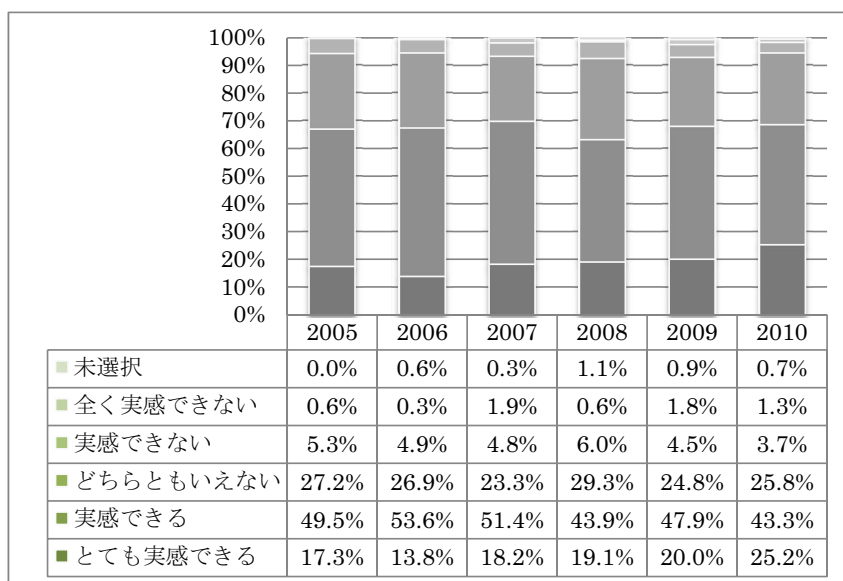


図 3 5. オ-①:「ゼミに所属していた卒業生」がゼミに、大変満足、満足した卒業生と Q-4「ものごとを論理的に考える力」との関係

Q-5 とのクロス集計では、同割合は 73.8%と前年度と比べ 3.2 ポイント上昇した。(図 3 6)

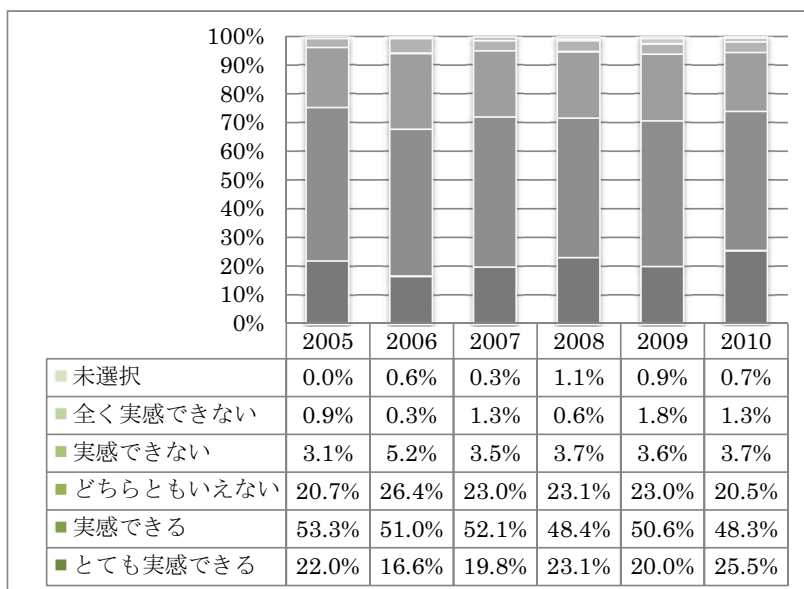


図 3 6. オ-①:「ゼミに所属していた卒業生」がゼミに、大変満足、満足した卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

この結果は、カリキュラムの満足度とのクロス集計の結果と似た傾向である。すなわち、研究演習に対する満足度に「大変満足」「満足」と回答した卒業生に関しては、Q-3「専門的知識を活かして考える力がついた」、Q-4「ものごとを論理的に考える力がついた」、Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」とのクロス集計で「とても実感できる」「実感できる」の割合が上昇している。

e. 就職に対する満足度と身についた力について

ここでは、キ：卒業後の進路についての満足度に対して、カ：にて「就職」を選択した卒業生をフィルタリングした情報にて分析を行なう。そのデータを『カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」』と記述する。

カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」で進路に「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、78.4%と前年度と比べ変化が無い。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合は、6.2%と前年度と比べ 0.5 ポイント上昇している。(図 3 7)

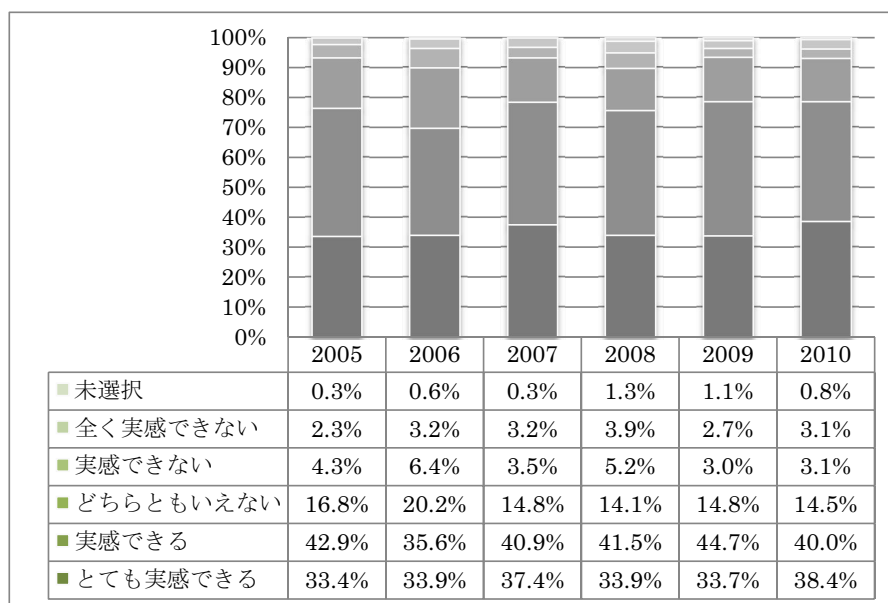


図 3 7. カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」で、「就職」に「大変満足」「満足」している卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

同様に、カ-①：で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-2 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、84.7%と前年度と比べ 2.4 ポイント低下している。これに対して、「全く実感できない」「実感できない」の割合は、2.8%と前年度と比べほぼ横ばいで、「どちらともいえない」が 11.8%と、前年度と比べ 2.7 ポイント上昇している。(図 3 8)

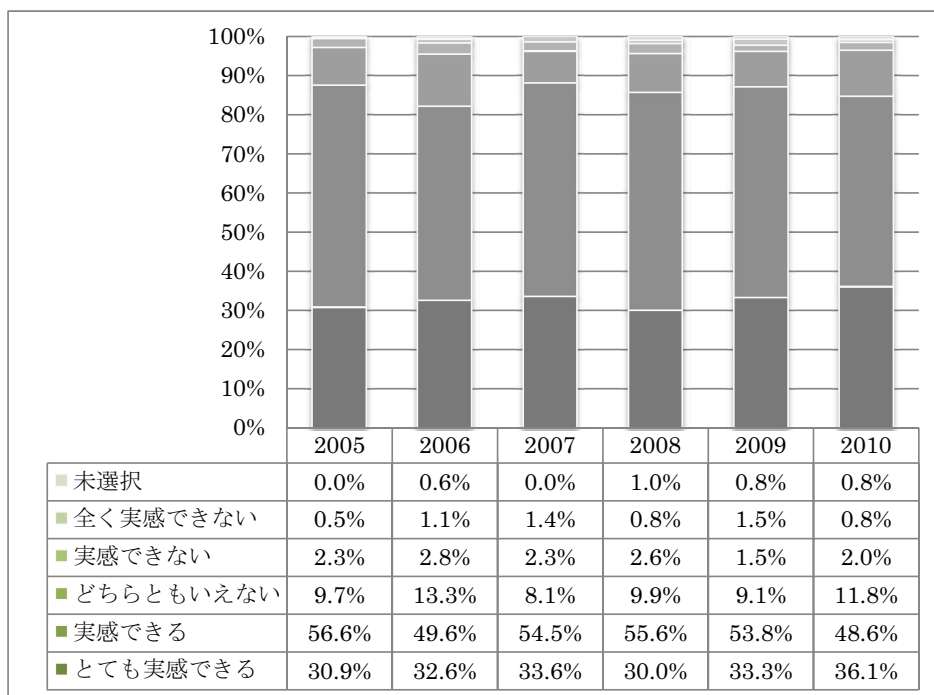


図 3 8. カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」で、「就職」に「大変満足」「満足」している卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

カ-①：で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、67.8%と前年度と比べほぼ横ばいとなっている(図 3 9)が、Q-4 とのクロス集計では、2010 年度は「とても実感できる」「実感できる」の割合は、70.2%と前年度と比べ 3.9 ポイント上昇した(図 4 0)。

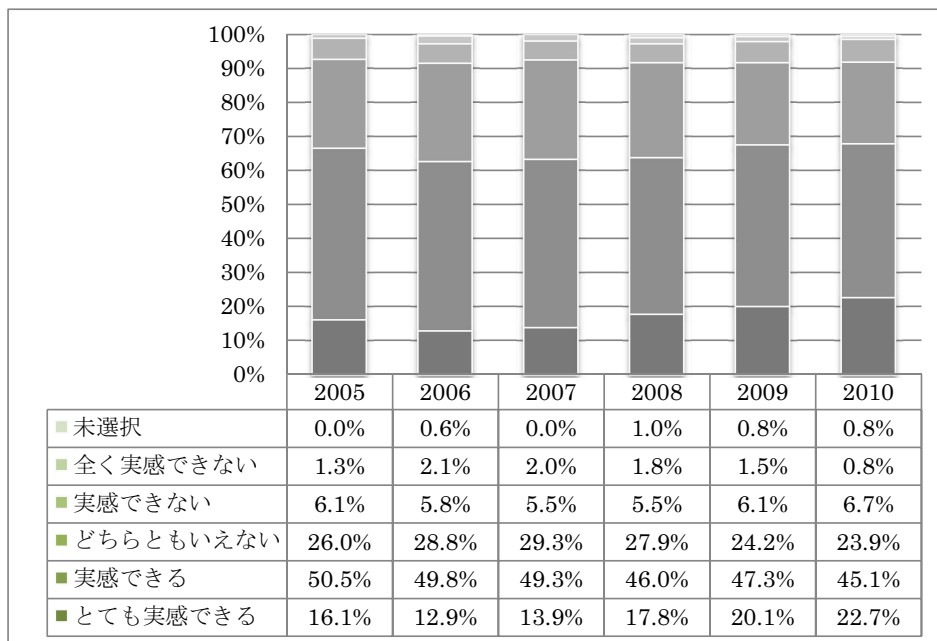


図 3 9 . カ-① : 「就職を進路と回答した卒業生」で、「就職」に「大変満足」「満足」している卒業生と Q-3 「専門的知識を活かして考える」との関係

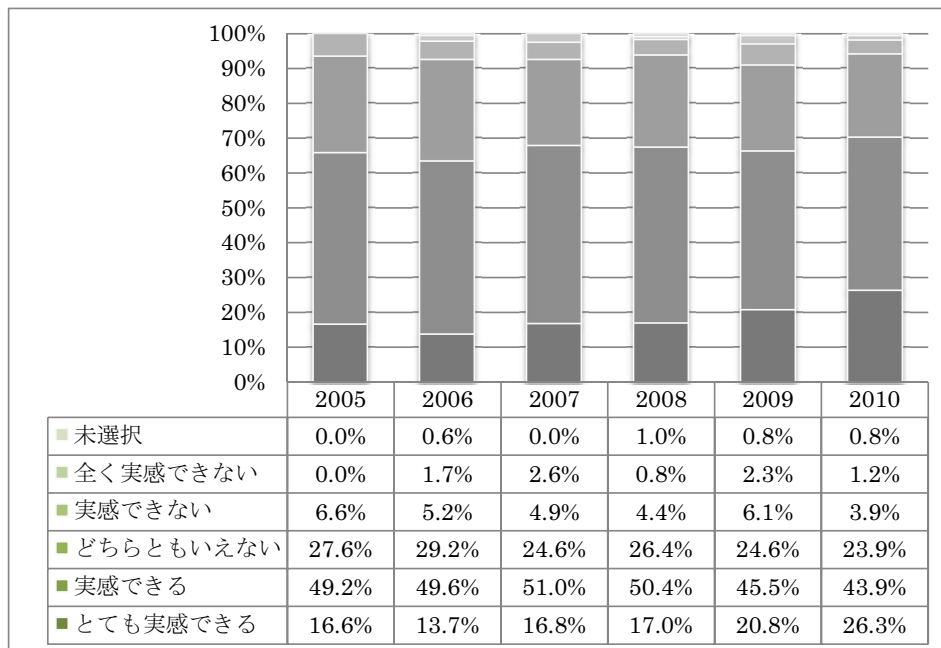


図 4 0 . カ-① : 「就職を進路と回答した卒業生」で、「就職」に「大変満足」「満足」している卒業生と Q-4 「ものごとを論理的に考える力」との関係

同様に、Q-5 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、74.5%と前年度と比べ 2.9 ポイント上昇した。(図 4 1)

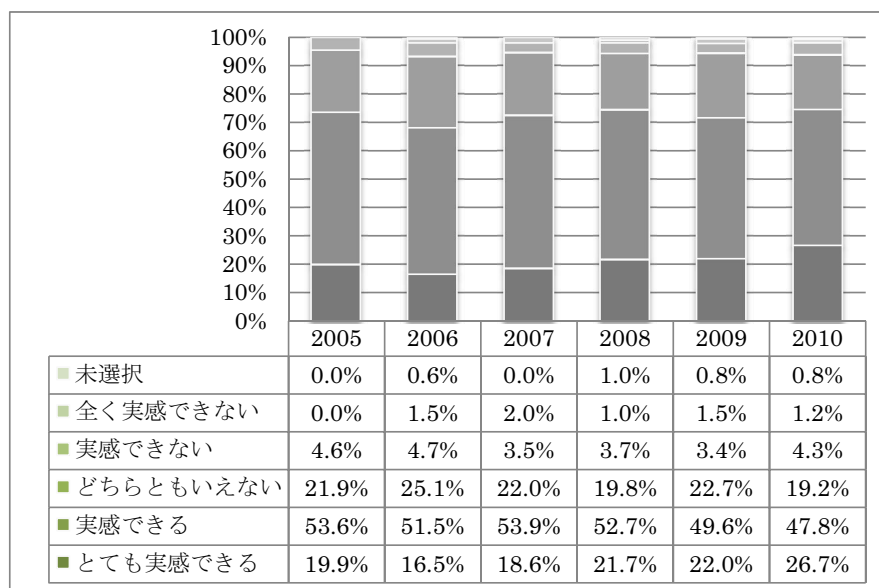


図 4 1. カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」で、「就職」に「大変満足」「満足」している卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

カ-①：「就職を進路と回答した卒業生」で「大変満足」「満足」と回答した卒業生の Q-3「専門的知識を活かして考える力がついた」、Q-4「ものごとを論理的に考える力がついた」、Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」との各クロス集計は、いずれも「とても実感できる」「実感できる」の割合が、概ね上昇傾向にある。

なお、先に述べた通り、本アンケートの回答者の就職率は、全校平均よりも高い。したがって、「とても実感できる」「実感できる」にプラスのバイアスがかかっている。

f. クラブまたはサークルへの取り組みと身についた力について

ク：「クラブまたはサークルに加入」を選択した卒業生を対象とした Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、83.4%と前年度と比べ 3.2 ポイント上昇している。(図 4 2)

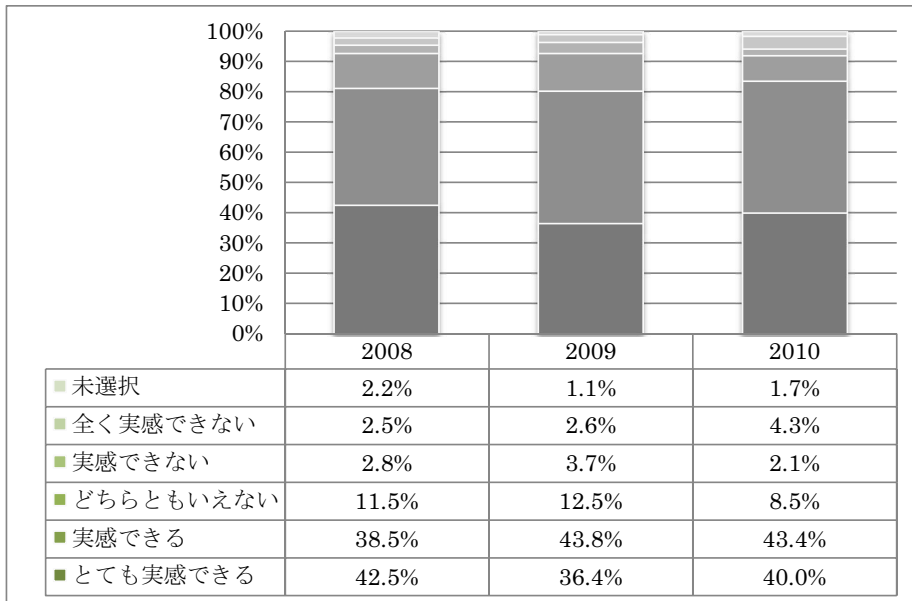


図 4 2. クラブまたはサークルに加入していた卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

Q-2 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、83.4%と前年度と比べ 4.9 ポイント低下している。(図 4 3)

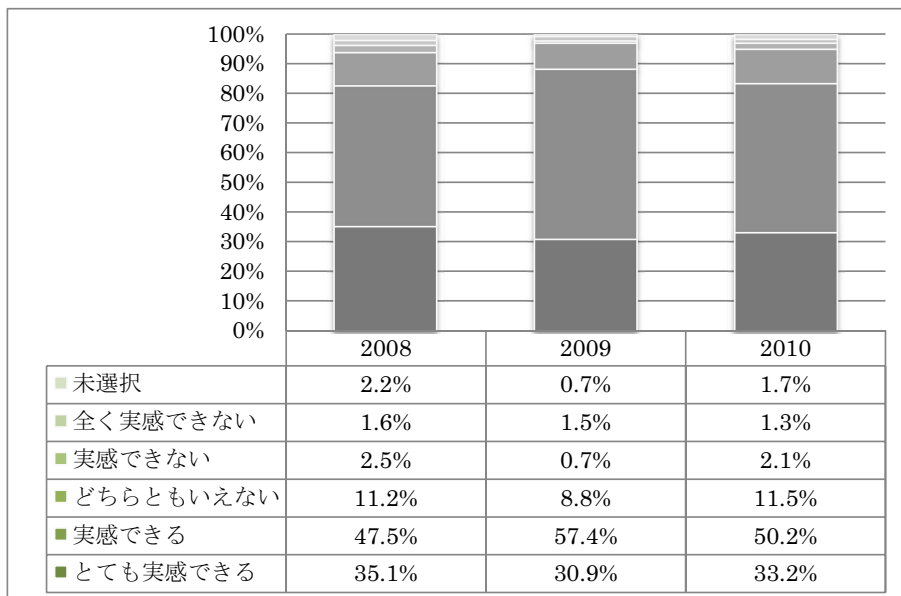


図 4 3. クラブまたはサークルに加入していた卒業生と Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、64.7%と前年度と比べ 5.2 ポイント上昇している。(図 4 4)

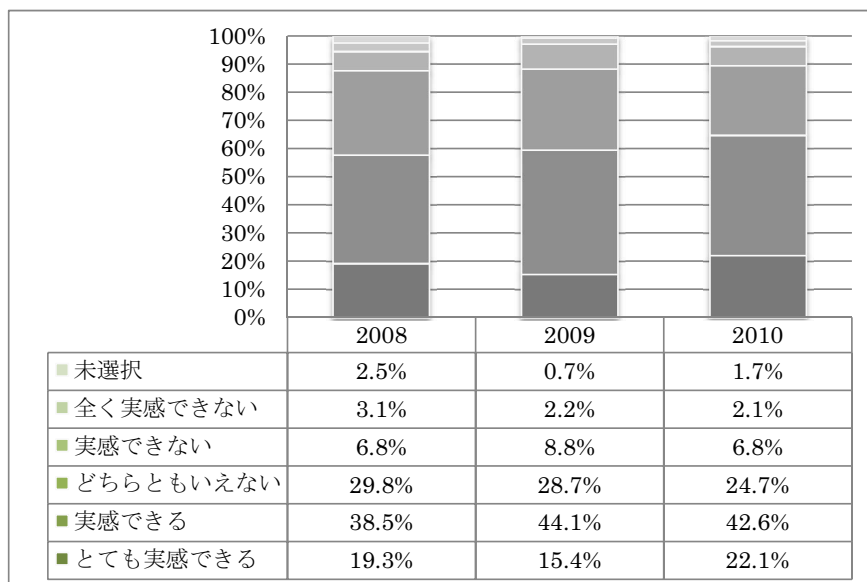


図 4 4. クラブまたはサークルに加入していた卒業生と Q-3「専門的知識を活かして考える」との関係

Q-4 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、67.2%と前年度と比べ 3.3 ポイント上昇している。(図 4 5)

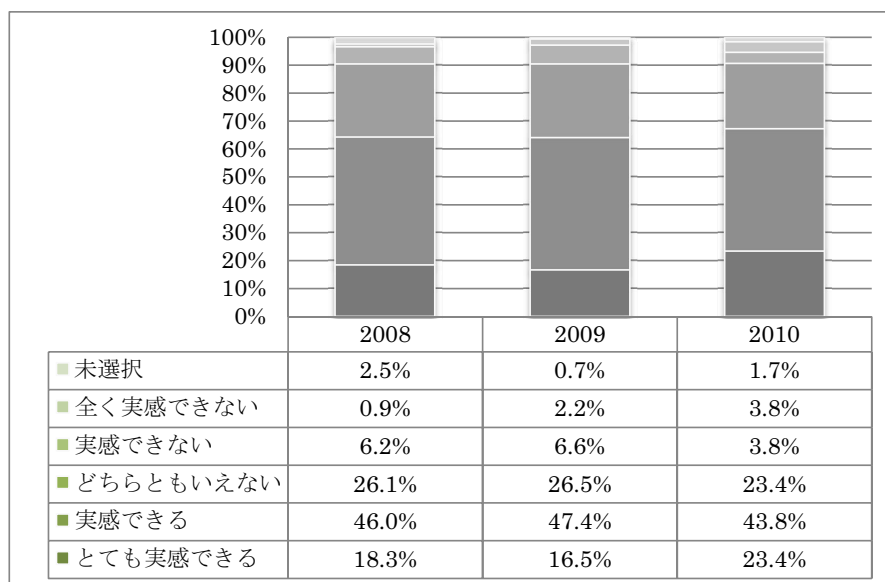


図 4 5. クラブまたはサークルに加入していた卒業生と Q-4「ものごとを論理的に考える力」との関係

Q-5 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、71.9%と前年度と比べ 1.0 ポイント上昇している。(図 4 6)

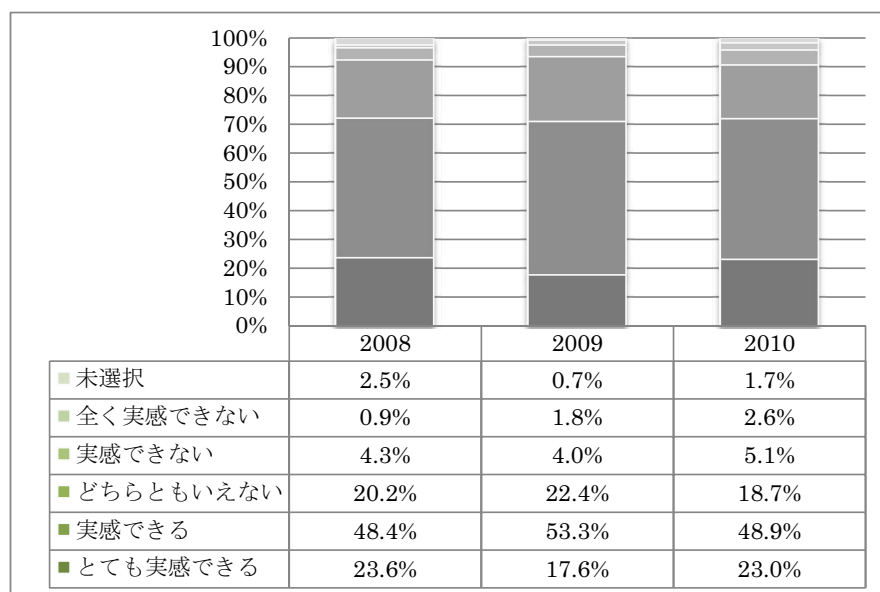


図 4 6. クラブまたはサークルに加入していた卒業生と Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

以上のように、Q-2「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合が低下したが、それ以外の Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた」、Q-3「専門的知識を活かして考える力がついた」、Q-4「ものごとを論理的に考える力がついた」、Q-5「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」とのクロス集計では上昇した。

なお、クラブまたはサークルに加入していた卒業生に限定せずクロス集計を行ったア：とのクロス集計との差異であるが、Q-1 とのクロス集計で 2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合が大きかった他はすべて小さい割合にとどまっている。

g. Ⅲ-1-g と身についた力について

ここでは、Ⅲ-1-g にて抽出した 5 つの設問について、全て「大変満足」または「満足」した卒業生（以降、「ケ：満足度の高い卒業生」とする）と身についた力について分析する。

ケ：満足度の高い卒業生と Q-1 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、89.3%と前年度と比べほぼ横ばいとなっている。(図 4 7)

ケ：満足度の高い卒業生と Q-2 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、93.2%と前年度と比べ 3.3 ポイント低下している。(図 4 8)

ケ：満足度の高い卒業生と Q-3 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、80.6%と前年度と比べ 4.3 ポイント低下している。(図 4 9)

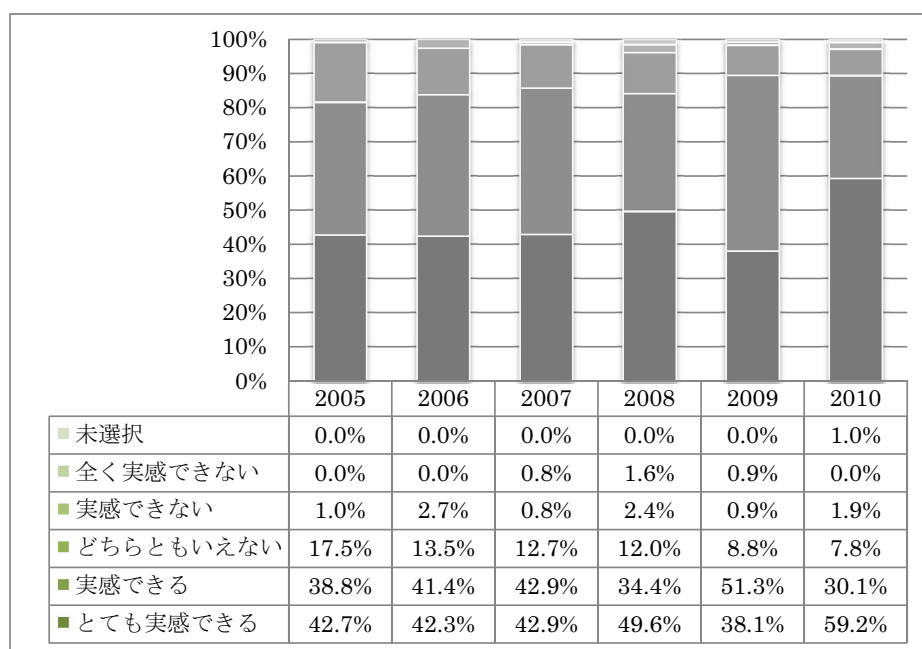


図 4 7. ケ：満足度の高い卒業生と Q-1「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」との関係

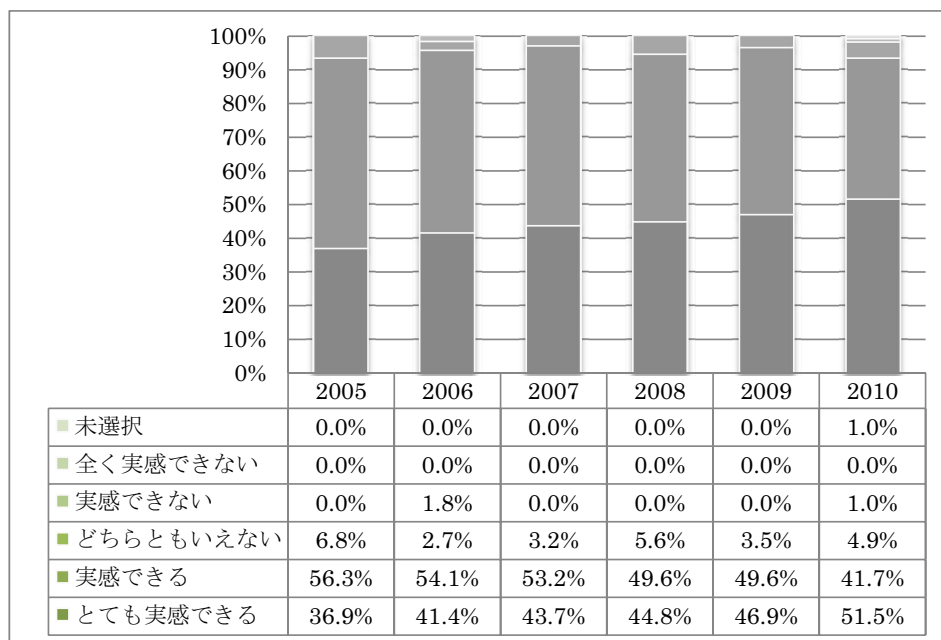


図 4 8 . ケ : 満足度の高い卒業生と Q-2 「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」との関係

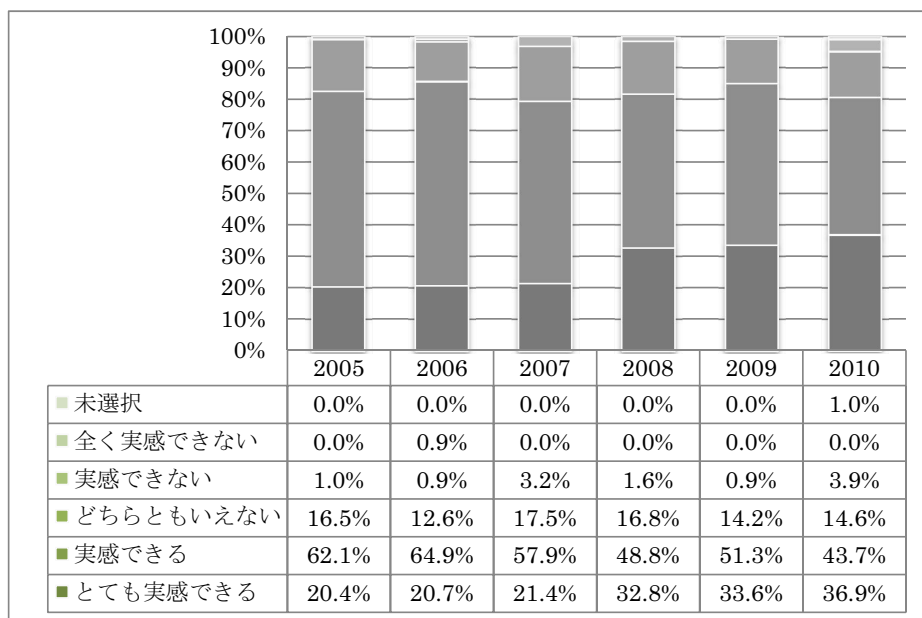


図 4 9 . ケ : 満足度の高い卒業生と Q-3 「専門的知識を活かして考える」との関係

Q-4 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、81.5%と前年度と比べほぼ横ばいとなっている。(図 5 0)

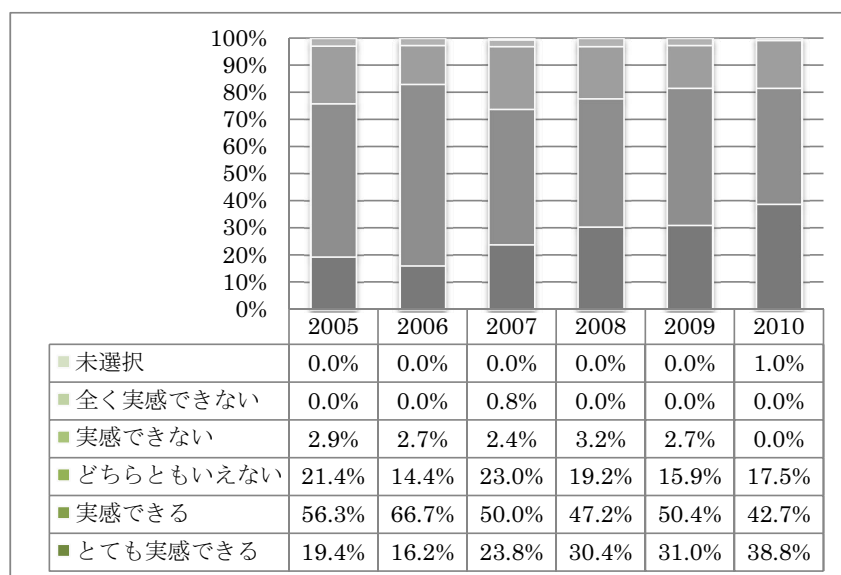


図 5 0. ケ：満足度の高い卒業生と Q-4 「ものごとを論理的に考える力」との関係

ケ：満足度の高い卒業生と Q-5 とのクロス集計では、2010 年度の「とても実感できる」「実感できる」の割合は、85.5%と前年度と比べ 5.0 ポイント上昇している。(図 5 1)

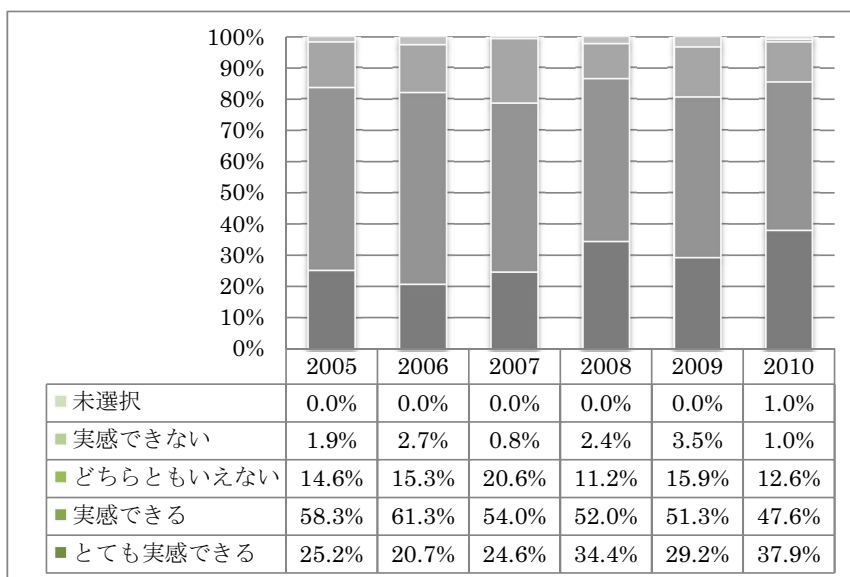


図 5 1. ケ：満足度の高い卒業生と Q-5 「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力」との関係

h. 『私立大学学生生活白書 2011』と対比したまとめ

これまで、a～g で述べてきた、大学における活動状況や満足度と身についた力の関係のクロス集計に関して、表 5 に直近である 2010 年度の、表 6 に 2006 年度のまとめ表を示した。2006 年度を選んだのは、「身についた力」は隔年で上下しており、2010 年が低下年であるので、同様の低下年の 2006 年度を比較対象としたものである。各種の満足や取り組みは、各種の身についた力と相関があり、いずれでも、全体の「とても実感」「実感」を上回っていた。特に、5 項目の全てに「大変満足」「満足」した学生の身についた力の実感は、2006 年度、2010 年度のいずれの年にも、5 項目すべてで 15 ポイント以上上回っていた。

次に、どのような項目の「大変満足」「満足」が、どのような項目の「とても実感」「実感」のポイントの上昇と強い関連があるかを検討する。

学生生活に「大変満足」「満足」やクラブ・サークル所属が、趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついたとの実感を強く上昇させるのは理解しやすい。私大連の調査（私大連学生委員会学生生活実態調査分科会、2011）でも、「課外活動に参加している」学生でポイントが大きく上昇しているという。

授業全般やカリキュラムに「大変満足」「満足」する学生は、五つの力のいずれでも「とても実感」「実感」の上昇幅が大きかった。特に 2006 年度では授業全般の「大変満足」「満足」が、2010 年度ではカリキュラムの「大変満足」「満足」が五つの力が身についたとの実感を押し上げている。ゼミに「大変満足」「満足」したものは、意外に、五つの力が身についたとの実感の上昇幅小さい。

就職に「大変満足」「満足」と、身についた力の「とても実感」「実感」の関係は 2006 年度と 2010 年度で大きな差がある。2006 年度においてはいずれでも上昇幅は 5 ポイント未満であったのに対し、2010 年度ではいずれでも 10 ポイント以上で 15 ポイント以上の項目もある。2006 年度は進路に「就職」と答えたものが 77.6 ポイントとこれまでの最大値であり、かつ進路への満足度も「大変満足」と「満足」が 72.9 ポイントと最大値であった。一方、2010 年度はそれぞれが、69.4%と 69.6%とこれまでの最少値であ

る。2006年度には各種の力が身についたと実感していない学生でも容易に満足していく就職ができたが、現在はこれらを実感できる学生でないと満足していく就職が困難になってきているということであろうか。

IV. おわりに

いうまでもなく、種々の面で満足感を得られた学生を増やし、様々な力を身につけて卒業させるのが大学にとっての課題である。様々な力を身につけさせるためには、クラブ・サークルへの所属、ゼミへの所属と満足、カリキュラムや授業への満足、学生生活への満足のそれぞれが、いくぶん違った働きをしているであろうことがうかがえた。5項目すべてに「大変満足」「満足」な学生の各種の力が身についたとの実感は、極めて高いが、毎年100～130名に止まっている。このような卒業生を増やすことが課題といえるだろう。

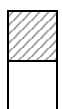
今回のデータベース化によって、今回は行わなかった様々な分析も可能になっている。必要に応じて今後も分析を実施していきたい。

表5. 満足度や取り組みと身につく力のクロス集計のまとめ(2010年度)

	趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた「とても実感」「実感」	視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた「とても実感」「実感」	専門知識を生かして考える力がついた「とても実感」「実感」	ものごとを論理的に考える力がついた「とても実感」「実感」	現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた「とても実感」「実感」
全体	66.7	76.5	62.3	63.2	66.7
学生生活に「大変満足」「満足」	76.7	84.7	69.0	69.0	74.7
授業全般に「大変満足」「満足」	74.9	86.7	76.8	73.1	78.3
カリキュラムに「大変満足」「満足」	79.0	87.9	78.3	76.4	79.8
ゼミに「大変満足」「満足」	74.8	81.9	67.5	68.5	73.8
就職に「大変満足」「満足」	78.4	84.7	67.8	70.2	74.5
クラブ・サークル所属学生	83.4	83.4	64.7	67.2	71.9
5項目全てに「大変満足」「満足」	89.3	93.2	80.6	81.5	85.5



は、全体より10ポイント以上上回る。



は、5ポイント未満、

は、15ポイント以上上回る。

は5ポイント以上10ポイント未満である。

表 6. 満足度や取り組みと身につく力のクロス集計のまとめ(2006年度)

	は、全体より 10 ポイント以上上回る。		は、5 ポイント未満、
	は、15 ポイント以上上回る。		は 5 ポイント以上 10 ポイント未満である。

	趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた「とても実感」「実感」	視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた「とても実感」「実感」	専門知識を生かして考える力がついた「とても実感」「実感」	ものごとを論理的に考える力がついた「とても実感」「実感」	現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた「とても実感」「実感」
全体	66.5	79.3	57.8	60.9	63.6
学生生活に「大変満足」「満足」	75.0	85.9	65.1	68.1	71.3
授業全般に「大変満足」「満足」	74.6	89.6	73.1	72.6	73.6
カリキュラムに「大変満足」「満足」	76.3	87.1	70.8	70.3	69.4
ゼミに「大変満足」「満足」	68.5	85.4	64.5	67.4	67.6
就職に「大変満足」「満足」	69.5	82.2	62.7	63.3	68.0
5項目全てに「大変満足」「満足」	83.7	95.6	85.6	82.9	82.0

文献

私大連学生委員会学生生活実態調査分科会、2011、『私立大学学生生活白書 2011』,36pp.

付録 1

<2010 年度「卒業生大学生生活満足度」調査票>

流通科学大学 高等教育研究センター

I. 基本事項

1. 卒業した学部はどちらですか? _____
- ①商学部 ②情報学部 ③サービス産業学部
2. 卒業した学科はどちらですか? _____
- ①流通学科 ②経営学科 ③ファイナンス学科
④経済情報学科 ⑤経営情報学科 ⑥観光・生活文化事業学科
⑦医療福祉サービス学科
3. 卒業したコースはどちらですか? _____
- ①流通・マーケティングコース ②アジア流通コース ③経営戦略コース
④財務・会計コース ⑤金融コース ⑥商学部コース未確定
⑦流通学科 ⑧経営学科 ⑨ファイナンス学科
⑩都市情報コース ⑪情報システムコース ⑫経営情報コース
⑬情報学部コース未確定 ⑭経済情報学科 ⑮経営情報学科
⑯観光事業コース ⑰生活文化コース ⑱スポーツ健康コース
⑲サービス心理コース ⑳社会福祉コース ㉑サービス産業学部コース未確定
㉒医療福祉サービス学科 ㉓観光・生活文化事業学科
4. 性別はどちらですか? _____
- ①男性 ②女性
5. あなたが入学された入試方法は何ですか? _____
- ①一般入試 ②特別選抜入試 ③留学生・社会人
(S方式・A方式・BC方式・D方式) (AO・指定校・公募)

II. 大学の施設について

1. 今後充実すべき施設、設備について下記の項目よりお選びください (複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください) _____
- ①図書館 ②メディアセンター ③RYUKA ホール
④教室 ⑤パソコン演習室 ⑥学生食堂(RYUKA ダイニング)
⑦クラブハウス ⑧ローソン ⑨グラウンド
⑩駐車場・駐輪場 ⑪特になし
- 一位
二位

III. 学生生活全般について

1. 学生生活を振り返って、あなたの満足度はどうですか? _____
- ①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満
2. 学生時代に参画した制度、取り組み、行事は何ですか? _____
- (最多で6つまで選択できます)
- ① 学生チューター ② キャリアリーダー ③ キャリアチューター
④ クラブ(体育会、文化会) ⑤ サークル ⑥ ボランティア
⑦ 海外留学、語学研修 ⑧ 資格取得 ⑨ 学生懸賞論文
⑩ 中内記念館作文 ⑪ 学生チャレンジプロジェクト ⑫ スピーチコンテスト
⑬ 企業実習(インターンシップ) ⑭ プログラミングコンテスト ⑮ ゼミ活動で他大学交流
⑯ ゼミ活動で企業との交流 ⑰ ゼミ活動で地域との交流 ⑱ 新歓祭で模擬店を出店
⑲ 学園祭で模擬店を出店 ⑳ 学園祭でステージイベント等に出場 ㉑ 学園祭で教室展示を実施
㉒ 社会連携プログラム ㉓ 就職対策宿泊セミナー ㉔ 作文・レポートコンクール
㉕ タイピング・コンテスト ㉖ 読書ラリー ㉗ オープンキャンパススタッフ
㉘ 学生書評コンテスト ㉙ ホームカミングデーのスタッフ ㉚ TA,SAを担当した
㉛ TERAKOYAに参加した ㉜ ポットラックパーティー ㉝ 留学生ふるさと紹介
㉞ 国際交流プログラム
3. 今後充実してほしい支援制度は何ですか? _____
- (複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)
- ①学内表彰 ②経済的困窮者対象奨学金 ③ボランティア参加者支援
④カウンセリング ⑤地域交流支援 ⑥留学支援
⑦学内留学生交流プログラム ⑧進路支援 ⑨クラブ活動支援
- 一位
二位

IV. 授業、カリキュラムについて

1. あなたの授業全体に対する満足度はどうですか？ _____

①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満

2-(1). 1 の設問で①②を選んだ人は理由をお答えください _____

(複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)

①教養が身についた ②視野が広がった ③知的刺激があった
 ④就職に役立った ⑤専門的知識が身についた ⑥資格取得に役立った
 ⑦楽しかった ⑧プレゼンテーション能力が身についた ⑨先生との交流があった
 ⑩単位認定が適切だった

一位
 二位

2-(2). 1 の設問で①②を選んだ人はお答えください。満足した授業は何ですか？ _____

(複数選択・・・優先順位をつけて3つ選んでください)

①語学関連科目 ②海外語学研修 ③人間文化科目
 ④学部専門科目 ⑤コンピュータ演習関連科目 ⑥特別講義(外部講師の授業)
 ⑦キャリア開発実習(インターンシップ) ⑧基礎演習 ⑨研究演習(ゼミ)
 ⑩ユニティでの単位互換科目 ⑪福祉施設実習 ⑫スポーツ健康科目
 ⑬スポーツ学外コース ⑭キャリア科目(キャリア開発実践論など)

一位
 二位
 三位

3. 1 の設問で④⑤を選んだ人はお答えください。不満足の原因は何ですか？ _____

(複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)

①教養が身につかなかった ②視野が広がらなかった
 ③知的刺激がなかった ④就職に役立たなかった
 ⑤専門的知識が身につかなかった ⑥資格取得に役立たなかった
 ⑦楽しくなかった ⑧プレゼンテーション能力が身につかなかった
 ⑨先生との交流がなかった ⑩単位認定が不適切だった

一位
 二位

4. 研究演習(ゼミ)についてお答えください _____

①ゼミに所属して卒業論文を執筆した ②ゼミに所属していたが卒業論文を執筆しなかった
 ③ゼミに所属していたが途中でやめた ④ゼミに所属していなかった

5. 4.の設問で①～③を選んだ人はお答えください _____

研究演習(ゼミ)の満足度についてお答えください

①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満

6. 5 の設問で①②を選んだ人はお答えください。満足度の要因は何ですか？ _____

(複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)

①専門的知識が身についた ②見識が身についた ③人間的に成長した
 ④先生との交流があった ⑤学生相互の交流があった ⑥楽しかった
 ⑦相談しやすい環境だった ⑧適確な助言があった ⑨少人数教育がよかった
 ⑩居場所ができた

一位
 二位

7. 5 の設問で④⑤を選んだ人はお答えください。不満足の原因は何ですか？ _____

(複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)

①専門的知識が身につかなかった ②見識が身につかなかった ③人間的に成長しなかった
 ④先生との交流がなかった ⑤学生相互の交流がなかった ⑥楽しくなかった
 ⑦相談しやすい環境ではなかった ⑧適確な助言がなかった ⑨少人数教育がよくなかった
 ⑩居場所がでなかつた

一位
 二位

8. 本学のカリキュラムについて _____

①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満

9. 今後のカリキュラムについての要望事項をお教えてください _____

(複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)

①一貫した専門教育が必要 ②少人数教育の徹底 ③学外招聘講師の充実
 ④カリキュラム開発等への学生参画 ⑤卒業要件の弾力化 ⑥授業改善アンケートの有効活用
 ⑦転学部・転学科の柔軟な対応 ⑧他大学との単位互換制度充実 ⑨多様な科目選択

一位
 二位

V. 進路選択について

1. あなたの卒業後の進路について、お教えてください _____
- ①就職 ②進学 ③その他 ()
2. あなたの卒業後の進路について、満足度はどうですか? _____
- ①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満
3. あなたはキャリア開発課（キャリアセンター）を利用しましたか? _____
- ①よく利用した ②利用した ③どちらともいえない
④あまり利用しなかった ⑤利用しなかった
4. キャリア開発課の進路支援に対する満足度はどうですか? _____
- ①大変満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤大変不満
5. 4 の設問で①②を選んだ人は理由をお答えください _____
- (複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)
- ①親身で熱心な指導 ②就職支援プログラムが充実している
③キャリアチューター、卒業生等のバックアップがある ④就職活動の為に図書や企業情報が豊富
⑤メール、携帯等による情報が役立った ⑥学生との距離が近く相談しやすい
6. 4 の設問で④⑤を選んだ人は理由をお答えください _____
- (複数選択・・・優先順位をつけて2つ選んでください)
- ①わざわざしい、自由に就職活動がしたい ②指導に問題がある、偉そうに指導される
③相談しづらい、相談したい職員がいない ④キャリア開発課の助け無しで就職活動できる
⑤情報量不足、欲しい情報がない ⑥単位取得を優先したため、キャリア開発課へ行けず
⑦どのような支援をしてくれるかわからなかった

VI. 資格取得について

1. 大学時代に取得された資格はありますか? (運転免許証は除く) _____
- ①ある () () ②ない
2. 1 の設問で①を選んだ人はお答えください _____
- あなたは資格取得した場合、単位認定制度があることを知っていましたか?
- ①知っていたので単位認定を受けた ②知っていたが単位認定を受けなかった
③知らなかったので単位認定を受けなかった
3. 大学の資格取得講座を受講したことがありますか? _____
- ①受講したことがある ②興味はあったが受講しなかった
③興味もなかったので受講しなかった
4. 医療福祉サービス学科の卒業生にお聞きます _____
- あなたは社会福祉士の資格試験を受けましたか?
- ①しっかりと対策をたてて受験した ②ある程度対策をたてて受験した
③あまり対策をたてずに受験した ④申込んだが受験しなかった
⑤対策をたてなかったため受験しなかった ⑥興味もなかったため受験しなかった

VII. パソコン利用について

1. あなたはパソコンを持っていますか? _____
- ①自分専用のデスクトップ型とノート型どちらかのパソコンがある ②家族と共用のパソコンがある
③家族はパソコンを持っているが、利用はできない ④パソコンは持っていない
2. パソコンの利用状況について、お答えください _____
- ①パソコンを積極的に利用しており、学生生活にかかせない ②必要に応じてパソコンを利用している
③パソコンの重要性はわかっているが、十分に使いこなせない ④パソコンは使えないし、今後も興味はない
3. 「RYUKA Portal」の利用について、お答えください _____
- ①大学と自宅と両方で利用していた ②大学でのみ利用していた
③自宅でのみ利用していた ④利用していなかった
4. 入学前よりパソコンに対する興味、利用頻度等は高まりましたか? _____
- ①大変高まった ②高まった ③高まらなかった ④わからない

VIII. 大学生生活で培われた力について

1. 大学生生活で「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた」と実感できますか？ _____
- ①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない
④実感できない ⑤全く実感できない
2. 大学生生活で「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」と実感できますか？ _____
- ①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない
④実感できない ⑤全く実感できない
3. 大学生生活で「専門的知識を活かして考える力がついた」と実感できますか？ _____
- ①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない
④実感できない ⑤全く実感できない
4. 大学生生活で「ものごとを論理的に考える力がついた」と実感できますか？ _____
- ①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない
④実感できない ⑤全く実感できない
5. 大学生生活で「現実の問題や課題を発見し、解決してゆく力がついた」と実感できますか？ _____
- ①とても実感できる ②実感できる ③どちらともいえない
④実感できない ⑤全く実感できない

IX. これからは以下の項目についてご自由に御意見をお書きください

1. キャンパスライフであなたが満足感を覚えたときはどういう時でしたか？具体的にお教えてください

2. 大学の学生生活支援全般に対するご意見や感想があれば、お教えてください

3. その他、気づいた点があれば、お教えてください